サーバ モデル別 BIOS パラメータ

この付録の内容は、次のとおりです。

- S3260 M3 サーバ （1 ページ）
- S3260 M4 サーバ （30 ページ）
- S3260 M5 サーバ （61 ページ）

S3260 M3 サーバ

[Main] タブ

名前	説明
[Reboot Host Immediately] チェックボックス	オンにすると、ホスト サーバが直ちに再起動されます。このチェックボックスは、変更を保存してからオンにする必要があります。
[TPM Support] **set TPMAdminCtrl**	TPM（トラステッドプラットフォーム モジュール）は、主に暗号キーを使用する基本的なセキュリティ関連機能を提供するように設計されたマイクロチップです。このオプションを使用すると、システムの TPM セキュリティ デバイス サポートを制御できます。次のいずれかを指定できます。 • [Disabled]：サーバは TPM を使用しません。 • [Enabled]：サーバは TPM を使用します。 （注） オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせることを推奨します。

名前	説明
[Power ON Password Support] ドロップダウン	このトークンでは、F2 BIOS 設定を使用する前に BIOS パスワードを設定する必要があります。有効にすると、IO 設定、BIOS セットアップ、BIOS を使用したオペレーティング システムへの起動など、BIOS 機能にアクセスする前にパスワードを検証する必要があります。次のいずれかを指定できます。 • [Disabled]：サポートはディセーブルになっています。 • [Enabled]：サポートはイネーブルになっています。 （注） このフィールドは、一部の C シリーズ サーバでのみ使用できます。

[Actions] 領域

名前	説明
[**Save**] ボタン	3 つのタブすべての BIOS パラメータの設定を保存し、ダイアログボックスを閉じます。 **[Reboot Host Immediately]** チェックボックスがオフの場合、サーバはすぐにリブートされ、新しい BIOS 設定が有効になります。そうでない場合、変更内容はサーバが手動でリブートされるまで保存されます。
[Reset] ボタン	3 つのタブすべての BIOS パラメータの値を、このダイアログボックスが最初に開いたときに有効であった設定にリセットします。
[Restore Defaults] ボタン	3 つのタブすべての BIOS パラメータをそのデフォルト値に設定します。

[Advanced] タブ

サーバ リブート オプション

変更内容を後で適用するには、**[Reboot Host Immediately]** チェックボックスをオフにします。Cisco IMC変更を保存し、次回サーバを再起動する際に変更を適用します。

（注） 保留中の BIOS パラメータの変更がすでにある場合、Cisco IMC は、[Save Changes] をクリックしたときに、保存されている値を現在の設定で自動的に上書きします。

[Processor Configuration] のパラメータ

名前	説明
[Intel Hyper-Threading Technology] ドロップダウン リスト **set IntelHyperThread**	プロセッサでインテル ハイパースレッディング テクノロジーを使用するかどうか。このテクノロジーでは、マルチスレッド ソフトウェア アプリケーションのスレッドを各プロセッサ内で並列に実行できます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでのハイパースレッディングを禁止します。 • [Enabled]：プロセッサでの複数スレッドの並列実行を許可します。 オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせることを推奨します。
[有効化されたコア数（Number of Enabled Cores）] ドロップダウン リスト **set CoreMultiProcessing**	サーバ上の 1 つ以上の物理コアをディセーブルにできます。次のいずれかになります。 • [All]：すべての物理コアをイネーブルにします。これにより、関連付けられている論理プロセッサ コアで Hyper Threading もイネーブルになります。 • [1] ～ [*n*]：サーバで実行できる物理プロセッサ コアの数を指定します。各物理コアには、論理コアが関連付けられています。 オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせることを推奨します。

サーバ モデル別 BIOS パラメータ

名前	説明
[Execute Disable] ドロップダウン リスト **set ExecuteDisable**	アプリケーション コードを実行できる場所を指定するために、サーバのメモリ領域を分類します。この分類の結果、悪意のあるワームがバッファにコードを挿入しようとした場合、プロセッサでコードの実行をディセーブルにします。この設定は、損害、ワームの増殖、および特定クラスの悪意のあるバッファ オーバーフロー攻撃を防止するのに役立ちます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでメモリ領域を分類しません。 • [Enabled]：プロセッサでメモリ領域を分類します。 オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせることを推奨します。
[Intel VT] **set IntelVT**	プロセッサで Intel Virtualization Technology（VT）を使用するかどうか。このテクノロジーでは、1つのプラットフォームで、複数のオペレーティング システムとアプリケーションをそれぞれ独立したパーティション内で実行できます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでの仮想化を禁止します。 • [Enabled]：プロセッサで、複数のオペレーティング システムをそれぞれ独立したパーティション内で実行できます。 （注） このオプションを変更した場合は、設定を有効にするためにサーバの電源を再投入する必要があります。
[Intel VT-d] **set IntelVTD**	Intel Virtualization Technology for Directed I/O（VT-d）をプロセッサで使用するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサで仮想化テクノロジーを使用しません。 • [Enabled]：プロセッサで仮想化テクノロジーを使用します。

名前	説明
[Intel VT-d Coherency Support] **set CoherencySupport**	プロセッサで Intel VT-d Coherency をサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでコヒーレンシをサポートしません。 • [Enabled]：プロセッサで VT-d Coherency を必要に応じて使用します。
[Intel VT-d ATS Support] **set ATS**	プロセッサで Intel VT-d Address Translation Services（ATS）をサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサで ATS をサポートしません。 • [Enabled]：プロセッサで VT-d ATS を必要に応じて使用します。
[CPU Performance] **set CPUPerformance**	サーバの CPU パフォーマンス プロファイルを設定します。パフォーマンス プロファイルは次のオプションで構成されます。 • DCU Streamer Prefetcher • DCU IP Prefetcher • Hardware Prefetcher • Adjacent Cache-Line Prefetch 次のいずれかになります。 • [Enterprise]：すべてのオプションがイネーブルです。 • [High Throughput]：DCUIP Prefetcher のみが有効になります。残りのオプションはディセーブルになります。 • [HPC]：すべてのオプションが有効になります。この設定はハイ パフォーマンス コンピューティングとも呼ばれます。 • [Custom]：パフォーマンス プロファイルのすべてのオプションをサーバの BIOS セットアップから設定できます。また、Hardware Prefetcher オプションと Adjacent Cache-Line Prefetch オプションは、下記のフィールドで設定できます。

名前	説明
[ハードウェア プリフェッチャ（Hardware Prefetcher）] ドロップダウン リスト **set HardwarePrefetch**	プロセッサで、インテル ハードウェア プリフェッチャが必要に応じてデータおよび命令ストリームをメモリから取得し、統合 2 次キャッシュに入れることを許可するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：ハードウェア プリフェッチャは使用しません。 • [Enabled]：プロセッサで、キャッシュの問題が検出されたときにプリフェッチャを使用します。
[隣接キャッシュラインプリフェッチャ（Adjacent Cache Line Prefetcher）] ドロップダウン リスト **set AdjacentCacheLinePrefetch**	プロセッサで必要な行のみを取得するのではなく、偶数または奇数のペアのキャッシュ行を取得するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサで必要な行のみを取得します。 • [Enabled]：プロセッサで必要な行およびペアの行の両方を取得します。
[DCUストリーマープリフェッチ（DCU Streamer Prefetch）] ロップダウン リスト **set DcuStreamerPrefetch**	プロセッサで DCU IP プリフェッチ メカニズムを使用して履歴キャッシュ アクセス パターンを分析し、L1 キャッシュ内で最も関連性の高い行をプリロードします。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサはキャッシュ読み取り要求を予測しようとせず、明示的に要求された行のみを取得します。 • [Enabled]：DCU Prefetcher でキャッシュ読み取りパターンを分析し、必要と判断した場合にキャッシュ内の次の行を事前に取得します。
[DCU IPプリフェッチャ（DCU IP Prefetcher）] ドロップダウン リスト **set DcuIpPrefetch**	プロセッサで DCU IP プリフェッチ メカニズムを使用して履歴キャッシュ アクセス パターンを分析し、L1 キャッシュ内で最も関連性の高い行をプリロードします。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでキャッシュ データをプリロードしません。 • [Enabled]：DCU IP プリフェッチャで最も関連性が高いと判断されたデータを含むL1 キャッシュをプリロードします。

名前	説明
[ダイレクトキャッシュアクセスサポート（Direct Cache Access Support）] ドロップダウン リスト **set DirectCacheAccess**	プロセッサで、データをI/Oデバイスから直接プロセッサ キャッシュに入れることにより、I/O パフォーマンスを向上させることができます。この設定はキャッシュミスを減らすのに役立ちます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：データはI/Oデバイスから直接プロセッサ キャッシュには入れられません。 • [Enabled]：データはI/Oデバイスから直接プロセッサ キャッシュに入れられます。
[Power Technology] **set CPUPowerManagement**	次のオプションのCPU電源管理設定を指定できます。 • [Enhanced Intel Speedstep Technology] • [Intel Turbo Boost Technology] • [Processor Power State C6] [Power Technology] は次のいずれかになります。 • [Custom]：前述のBIOSパラメータの個々の設定が使用されます。これらの BIOS パラメータのいずれかを変更する場合は、このオプションを選択する必要があります。 • [Disabled]：サーバでCPU電源管理は実行されず、前述の BIOS パラメータの設定が無視されます。 • [Energy Efficient][Energy_Efficient]：前述の BIOS パラメータに最適な設定が決定され、これらのパラメータの個々の設定は無視されます。

名前	説明
[Enhanced Intel Speedstep Technology] ドロップダウン リスト **set EnhancedIntelSpeedStep**	プロセッサで拡張版 Intel SpeedStep テクノロジーを使用するかどうか。このテクノロジーでは、プロセッサの電圧やコア周波数をシステムが動的に調整できます。このテクノロジーにより、平均電力消費量と平均熱発生量が減少する可能性があります。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサの電圧または周波数を動的に調整しません。 • [Enabled]：プロセッサで Enhanced Intel SpeedStep Technology が使用され、サポートされているすべてのスリープ状態でさらに電力を節約することが可能になります。 オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせることを推奨します。 （注） [Power Technology][CPUPowerManagement] を [Custom] に設定する必要があります。そのようにしない場合、このパラメータの設定は無視されます。
[Intel Turbo Boost Technology] **set IntelTurboBoostTech**	プロセッサでインテル ターボ ブースト テクノロジーを使用するかどうか。このテクノロジーでは、仕様よりも低い電力、温度、または電圧でプロセッサが動作していると、自動的にそのプロセッサの周波数が上がります。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサの周波数は自動的には上がりません。 • [Enabled]：必要に応じてプロセッサで Turbo Boost Technology が利用されます。 （注） [Power Technology][CPUPowerManagement] を [Custom] に設定する必要があります。そのようにしない場合、このパラメータの設定は無視されます。

名前	説明
[Processor Power State C6] **set ProcessorC6Report**	BIOS からオペレーティング システムに C6 レポートを送信するかどうか。OS はレポートを受信すると、プロセッサを電力量の少ない C6 状態に移行してエネルギー使用量を減らし、最適なプロセッサ パフォーマンスを維持できます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：BIOS から C6 レポートを送信しません。 • [Enabled]：BIOS から C6 レポートを送信し、OS がプロセッサを電力量の少ない C6 状態に移行できるようにします。 （注） [Power Technology][CPUPowerManagement] を [Custom] に設定する必要があります。そのようにしない場合、このパラメータの設定は無視されます。
[プロセッサの電源状態C1拡張（Processor Power State C1 Enhanced）] ドロップダウン リスト **set ProcessorC1EReport**	C1 ステートに入ったときに、CPU が最小周波数に移行するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：CPU は C1 ステートでも引き続き最大周波数で動作します。 • [Enabled]：CPU は最小周波数に移行します。このオプションでは C1 ステートで節約される電力量が最大になります。
[周波数フロアオーバーライド（Frequency Floor Override）] ドロップダウン リスト **set CpuFreqFloor**	アイドル時に、CPU がターボを除く最大周波数よりも低い周波数にできるようにするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：アイドル状態のときに、CPU を最大非ターボ周波数よりも低くできます。このオプションでは電力消費が低下しますが、システム パフォーマンスが低下する可能性があります。 • [Enabled]：アイドル状態のときに、CPU を最大非ターボ周波数よりも低くできません。このオプションではシステム パフォーマンスが向上しますが、消費電力が増加することがあります。

名前	説明
[P-STATE調整（P-STATE Coordination）] ドロップダウン リスト **set PsdCoordType**	BIOS がオペレーティング システムに P-state サポート モデルを伝達する方法を定義できます。Advanced Configuration and Power Interface（ACPI）仕様では、次の 3 つのモデルが定義されています。 • [HW_ALL]：プロセッサ ハードウェアによって、依存関係にある論理プロセッサ（パッケージ内のすべての論理プロセッサ）間の P-state を調整します。 • [SW_ALL]：OS Power Manager（OSPM）によって、依存関係にある論理プロセッサ（物理パッケージ内のすべての論理プロセッサ）間の P-state を調整します。すべての論理プロセッサで遷移を開始する必要があります。 • [SW_ANY]：OS Power Manager（OSPM）によって、依存関係にある論理プロセッサ（パッケージ内のすべての論理プロセッサ）間の P-state を調整します。ドメイン内の任意の論理プロセッサで遷移を開始できます。 （注） [Power Technology][CPUPowerManagement] を [Custom] に設定する必要があります。そのようにしない場合、このパラメータの設定は無視されます。
[エネルギーパフォーマンス（Energy Performance）] ドロップダウン リスト **set CpuEngPerfBias**	システム パフォーマンスまたはエネルギー効率がこのサーバで重要かどうかを判断できます。次のいずれかになります。 • **Balanced_Energy** • **Balanced_Performance** • **Energy_Efficient** • **Performance**

[Memory Configuration] のパラメータ

名前	説明
[Select Memory RAS] **set SelectMemoryRAS**	サーバに対するメモリの信頼性、可用性および機密性（RAS）の設定方法。次のいずれかになります。 • [Maximum Performance][Maximum_Performance]：システムのパフォーマンスが最適化されます。 • [Mirroring]：システムのメモリの半分をバックアップとして使用することにより、システムの信頼性が最適化されます。 • [Lockstep]：サーバ内の DIMM ペアが、同一のタイプ、サイズ、および構成を持ち、SMI チャネルにまたがって装着されている場合、ロックステップ モードを有効にして、メモリ アクセス遅延の最小化およびパフォーマンスの向上を実現できます。このオプションを使用した場合、[Mirroring] よりもシステム パフォーマンスが向上し、[Maximum Performance] よりも信頼性が向上しますが、[Mirroring] よりも信頼性が低く、[Maximum Performance] よりもシステム パフォーマンスは低下します。
[DRAMクロックスロットリング（DRAM Clock Throttling）] ドロップダウン リスト **set DRAMClockThrottling**	メモリ帯域幅と消費電力に関してシステム設定を調整できます。次のいずれかになります。 • [Balanced]：DRAM クロック スロットリングを低下させ、パフォーマンスと電力のバランスをとります。 • [Performance]：DRAM クロック スロットリングを無効化し、追加の電力を使用してメモリ帯域幅を増やします。 • [Energy Efficient]：DRAMのクロック スロットリングを上げてエネルギー効率を向上させます。
[NUMA] ドロップダウン リスト **set NUMAOptimize**	BIOS で Non-Uniform Memory Access（NUMA）がサポートされているかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：BIOS で NUMA をサポートしません。 • [Enabled]：NUMA に対応したオペレーティング システムに必要な ACPI テーブルを BIOS に含めます。このオプションを有効にする場合は、一部のプラットフォームでシステムのソケット間メモリ インターリーブを無効にする必要があります。

名前	説明
[低電圧DDRモード（Low Voltage DDR Mode）] ドロップダウン リスト **set LvDDRMode**	低電圧と高周波数のどちらのメモリ動作をシステムで優先するか。次のいずれかになります。 • [Power Saving Mode][Power_Saving_Mode]：低電圧のメモリ動作が高周波数のメモリ動作よりも優先されます。 このモードでは、電圧を低く維持するために、メモリの周波数が低下する可能性があります。 • [Performance Mode][Performance_Mode]：高周波数の動作が低電圧の動作よりも優先されます。
[DRAMリフレッシュレート（DRAM Refresh Rate）] ドロップダウン リスト **set DramRefreshRate**	DRAMセルをリフレッシュするレートを設定できます。次のいずれかになります。 • **[1x]**：DRAMセルは、64ミリ秒ごとにリフレッシュされます。 • **[2x]**：DRAMセルは、32ミリ秒ごとにリフレッシュされます。 • **[3x]**：DRAMセルは、21ミリ秒ごとにリフレッシュされます。 • **[4x]**：DRAMセルは、16ミリ秒ごとにリフレッシュされます。 • [Auto]：DRAM セルのリフレッシュ レートは、システム設定に基づき BIOS によって自動的に選択されます。これは、このパラメータの推奨設定です。
[チャネルインターリーブ（Channel Interleaving）] ドロップダウン リスト **set ChannelInterLeave**	CPUがメモリ ブロックを分割して、インターリーブされたチャネル間にデータの連続部分を分散し、同時読み取り動作を有効にするかどうか。次のいずれかになります。 • [Auto]：実行するインターリーブを、CPU が決定します。 • [1Way][1_Way]：一部のチャネル インターリーブが使用されます。 • [2Way][2_Way] • [3Way][3_Way] • [4Way][4_Way]：最大のチャネル インターリーブが使用されます。

名前	説明
[Rank Interleaving] **set RankInterLeave**	1つのランクを更新中に別のランクにアクセスできるよう、CPU がメモリの物理ランクをインターリーブするかどうか。次のいずれかになります。 • [Auto]：実行するインターリーブを、CPU が決定します。 • [1Way][1_Way]：一部のランク インターリーブが使用されます。 • [2Way][2_Way] • [4Way][4_Way] • [8Way][8_Way]：最大量のランク インターリーブが使用されます。
[Patrol Scrub] **set PatrolScrub**	システムがサーバ上のメモリの未使用部分でも単一ビット メモリ エラーをアクティブに探して訂正するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：CPUがメモリ アドレスの読み取りまたは書き込みを行うときのみ、システムはメモリのECC エラーをチェックします。 • [Enabled]：システムは定期的にメモリを読み書きして ECC エラーを探します。エラーが見つかると、システムは修正を試みます。このオプションにより、単一ビットエラーは複数ビットエラーになる前に修正される場合がありますが、パトロール スクラブの実行時にパフォーマンスが低下する場合もあります。
[デマンドスクラブ（Demand Scrub）] ドロップダウン リスト **set DemandScrub**	CPU または I/O から読み取り要求があった時に発生したシングル ビット メモリ エラーを、システムで修正するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：シングル ビット メモリ エラーは修正されません。 • [Enabled]：シングル ビット メモリ エラーがメモリ内部で修正され、修正されたデータが読み取り要求に応じて設定されます。

名前	説明
[高度（Altitude）] ドロップダウン リスト **set Altitude**	物理サーバがインストールされている地点のおよその海抜（m 単位）。次のいずれかになります。 • [Auto]：物理的な高度をCPUによって判別します。 • [300M][300_M]：サーバは海抜約 300 m の位置にあります。 • [900M][900_M]：サーバは海抜約 900 m の位置にあります。 • [1500M][1500_M]：サーバは海抜約 1500 m の位置にあります。 • **[3000_M]**：サーバは、海抜約 3000 m です。

[QPI Configuration] のパラメータ

名前	説明
[QPI Link Frequency Select] **set QPILinkFrequency**	Intel QuickPath Interconnect（QPI）リンク周波数（ギガトランスファー/秒（GT/s）単位）。次のいずれかになります。 • [Auto]：QPI リンク周波数はCPUによって決定されます。 • **6.4_GT/s** • 7.2_GT/s] • **8.0_GT/s**

名前	説明
[QPI Snoop Mode] ドロップダウン リスト	Intel QuickPath Interconnect（QPI）スヌープ モード。次のいずれかになります。 • [Auto]：CPU は自動的に早期スヌープ モードとして認識します。 • [早期スヌープ（Early Snoop）]：分散キャッシュ リング停止で、別のキャッシング エージェントにスヌープ プローブまたは要求を直接送信できます。このモードは、遅延が少なく、スレッド全体でデータ セットを共有しているためにキャッシュ間転送からメリットが得られるワークロードやNUMA最適化されていないワークロードに最適です。 • [ホーム スヌープ（Home Snoop）]：スヌープは、常に、メモリ コントローラのホーム エージェント（集中型リング停止）によって起動されます。このモードは、早期スヌープよりローカル遅延が多くなりますが、未処理トランザクションが増えた場合に予備のリソースを使用できます。 • [Home Directory Snoop]：ホーム ディレクトリは、プロセッサ内の HA と iMC の両方のロジックに実装されたオプション機能です。このディレクトリの目的は、スケーラブルなプラットフォームと 2S および 4S 構成でスヌープをリモート ソケットとノード コントローラにフィルタリングすることです。 • [Home Directory Snoop with OSB]：Opportunistic Snoop Broadcast（OSB）ディレクトリ モードでは、HAは、ディレクトリ情報が収集されてチェックされる前であっても、非常に負荷の軽い状況下で推測的ホーム スヌープ ブロードキャストを選択できます。 • [クラスタ オン ダイ（Cluster on Die）]：クラスタ オン ダイが有効になります。有効な LLC が 2 つの部分に分割され、それぞれに個別のキャッシュ エージェントが設定されます。これにより、一部のワークロードのパフォーマンスが向上します。このモードは、コアが10以上のプロセッサでのみ使用できます。高度にNUMA最適化されたワークロードに最適なモードです。

[SATA の設定（SATA Configuration）] のパラメータ

名前	説明
[SATA Mode] **set SataMode**	Serial Advanced Technology Attachment（SATA）ソリッド ステート ドライブ（SSD）の動作モード。 • [無効（Disabled）]：すべての SATA ポートが無効であり、ドライバは列挙されません。 • [AHCI Mode]：デフォルト モードです。ドライブは、新しい標準である Advance Host Controller Interface（AHCI）に基づいて動作します。

[USB Configuration] のパラメータ

名前	説明
[レガシーUSBサポート（Legacy USB Support）] ドロップダウン リスト **set LegacyUSBSupport**	システムでレガシー USB デバイスをサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：USB デバイスは、EFI アプリケーションでのみ使用できます。 • [Enabled]：レガシー USB のサポートは常に使用できます。 • [Auto]：USB デバイスが接続されていない場合、レガシー USB のサポートがディセーブルになります。
[Port 60/64 Emulation] **set UsbEmul6064**	完全な USB キーボード レガシー サポートのために 60h/64h エミュレーションをシステムでサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：60h/64 エミュレーションはサポートされません。 • [Enabled]：60h/64 エミュレーションはサポートされます。 サーバで USB 非対応オペレーティング システムを使用する場合は、このオプションを選択する必要があります。
[すべてのUSBデバイス（All USB Devices）] ドロップダウン リスト **set AllUsbDevices**	すべての物理および仮想 USB デバイスを有効にするか無効にするか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：すべての USB デバイスが無効になります。 • [Enabled]：すべての USB デバイスが有効になります。

名前	説明
[USB Port: Rear] **set UsbPortRear**	背面パネルの USB デバイスを有効にするか無効にするか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：背面パネルの USB ポートを無効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されません。 • [Enabled]：背面パネルの USB ポートを有効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されます。
[USB Port: Internal] **set UsbPortInt**	内部 USB デバイスを有効にするか無効にするか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：内部 USB ポートを無効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されません。 • [Enabled]：内部 USB ポートを有効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されます。
[USB Port: KVM] **set UsbPortKVM**	KVM ポートを有効にするか無効にするか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：KVM キーボードおよびマウス デバイスを無効にします。キーボードとマウスは KVM ウィンドウで機能しなくなります。 • [Enabled]：KVM キーボードおよびマウス デバイスを有効にします。
[USB Port: vMedia] **set UsbPortVMedia**	仮想メディア デバイスを有効にするか無効にするか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：vMedia デバイスを無効にします。 • [Enabled]：vMedia デバイスを有効にします。

[PCI Configuration] のパラメータ

名前	説明
[PCI ROM CLP] **set PciRomClp**	PCI ROM Command Line Protocol（CLP）は、カード上の iSCSI や PxE などのさまざまなオプション ROM の実行を制御します。デフォルトでは、無効になっています。 • [Enabled]：ポートごとに個別に、iSCSI や PxE などのさまざまなオプション ROM の実行を制御できるようにします。 • [Disabled]：デフォルト オプションです。異なるオプション ROM は選択できません。デフォルト オプション ROM は PCI 列挙中に実行されます。
[ASPMサポート（ASPM Support）] ドロップダウン リスト **set ASPMSupport**	BIOS での ASPM（アクティブ電源状態管理）サポートのレベルを設定できます。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：ASPM サポートは、BIOS で無効になります。 • [Force L0s]：すべてのリンクを強制的に L0 スタンバイ（L0）状態にします。 • [Auto]：電力状態を CPU によって判別します。

[Serial Configuration] のパラメータ

名前	説明
[Out-of-Band Mgmt Port] **set comSpcrEnable**	Windows 緊急管理サービスで使用可能な COM ポート 0 を設定することができます。このセットアップ オプションに基づいて ACPI SPCR テーブルが報告されます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：Windows オペレーティング システムで使われる汎用ポートとして COM ポート 0 を設定します。 • [Enabled]：Windows 緊急管理サービス用のリモート管理ポートとして COM ポート 0 を設定します。

名前	説明
[コンソールリダイレクション（Console redirection）] ドロップダウン リスト **set ConsoleRedir**	POSTおよびBIOSのブート中に、シリアル ポートをコンソール リダイレクションに使用できるようにします。BIOSのブートが完了し、オペレーティング システムがサーバを担当すると、コンソール リダイレクションは関連がなくなり、無効になります。次のいずれかになります。 • [Disabled]：POST 中にコンソール リダイレクションは発生しません。 • [COM 0]：POST中に COM ポート 0 でコンソール リダイレクションを有効にします。 • [COM 1]：POST中に COM ポート 1 でコンソール リダイレクションを有効にします。
[Terminal type] **set TerminalType**	コンソール リダイレクションに使用される文字フォーマットのタイプ。次のいずれかになります。 • [PC-ANSI]：PC-ANSI 端末フォントが使用されます。 • [VT100]：サポートされている vt100 ビデオ端末とその文字セットが使用されます。 • [VT100+]：サポートされている vt100-plus ビデオ端末とその文字セットが使用されます。 • [VT-UTF8]：UTF-8 文字セットのビデオ端末が使用されます。 （注） この設定は、リモート ターミナル アプリケーション上の設定と一致している必要があります。
[Bits per second] **set BaudRate**	シリアル ポートの伝送速度として使用されるボー レート。[Console Redirection] を無効にする場合は、このオプションを使用できません。次のいずれかになります。 • [9600]：9,600 ボー レートが使用されます。 • [19200]：19,200 ボー レートが使用されます。 • [38400]：38,400 ボー レートが使用されます。 • [57600]：57,600 ボー レートが使用されます。 • [115200]：115,200 ボー レートが使用されます。 （注） この設定は、リモート ターミナル アプリケーション上の設定と一致している必要があります。

名前	説明
[フロー制御（Flow Control）] ドロップダウン リスト **set FlowCtrl**	フロー制御にハンドシェイク プロトコルを使用するかどうか。送信要求/クリア ツーセンド（RTS/CTS）を使用すると、隠れた端末問題が原因で発生する可能性があるフレーム コリジョンを減らすことができます。次のいずれかになります。 • [None]：フロー制御は使用されません。 • **Hardware_RTS/CTS**：フロー制御に RTS/CTS が使用されます。 （注） この設定は、リモート ターミナル アプリケーション上の設定と一致している必要があります。
[Putty KeyPad] **set PuttyFunctionKeyPad**	PuTTY ファンクション キーおよびテンキーの最上段のキーのアクションを変更できます。次のいずれかになります。 • [VT100]：ファンクション キーによって **ESC OP** ～ **ESC O[** を生成します。 • [LINUX]：Linux 仮想コンソールを模倣します。ファンクション キー F6 ～ F12 はデフォルト モードと同様に動作しますが、F1 ～ F5 は **ESC [[A** ～ **ESC [[E** を生成します。 • [XTERMR6]：ファンクション キー F5 ～ F12 がデフォルト モードと同様に動作します。ファンクション キー F1 ～ F4 によって ESC OP ～ ESC OS を生成します。これはデジタル端末のキーパッドの上段によって生成されるシーケンスです。 • [SCO]：ファンクション キー F1 ～ F12 によって **ESC [M** ～ **ESC [X** を生成します。ファンクション キーと Shift キーによって **ESC [Y** ～ **ESC [j** を生成します。Ctrl キーとファンクション キーによって **ESC [k** ～ **ESC [v** を生成します。Shift、Ctrl およびファンクション キーによって **ESC [w** ～ **ESC [{** を生成します。 • **[ESCN]**：デフォルト モードです。ファンクション キーはデジタル端末の一般的な動作と一致します。ファンクション キーによって **ESC [11~** や **ESC [12~** などのシーケンスを生成します。 • [VT400]：ファンクション キーがデフォルト モードと同様に動作します。テンキーの最上段のキーによって **ESC OP** ～ **ESC OS** を生成します。

名前	説明
[Redirection After BIOS POST] **set RedirectionAfterPOST**	BIOS POST が完了し、OS ブートローダに制御が渡された後に、BIOS コンソール リダイレクションがアクティブであるかどうか。次のいずれかになります。 • [Always Enable]：OSのブートおよび実行時に BIOS レガシー コンソール リダイレクションがアクティブになります。 • [Bootloader]：OS ブートローダに制御が渡される前に BIOS レガシー コンソール リダイレクションがディセーブルになります。

[LOM and PCIe Slots Configuration] のパラメータ

名前	説明
[VICに対するCDNサポート（CDN Support for VIC）] ドロップダウン リスト **set CdnEnable**	イーサネット ネットワークの命名規則が Consistent Device Naming（CDN）または従来の命名規則に従うかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：VIC カードの CDN サポートが無効になります。 • [Enabled]：VIC カードの CDN サポートが有効になります。 （注） VIC カードの CDN サポートは、Windows 2012 または最新の OS でのみ機能します。
[All PCIe Slots OptionROM] **set PcieOptionROMs**	PCIe カードのオプション ROM をサーバが使用できるかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：すべての PCIe スロットの オプション ROM が使用できません。 • [Enabled]：すべての PCIe スロットの オプション ROM が使用可能です。 • **[UEFI_Only]**：スロット ***n*** のオプション ROM は UEFI にのみ使用できます。 • **[Legacy_Only]**：スロット ***n*** のオプション ROM はレガシーにのみ使用できます。

名前	説明
[PCIe Slot:*n* OptionROM **set PcieSlot*n*OptionROM**	PCIe カードのオプション ROM をサーバが使用できるかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：スロット ***n*** のオプション ROM は使用できません。 • [Enabled]：スロット ***n*** のオプション ROM は使用可能です。 • **[UEFI_Only]**：スロット ***n*** のオプション ROM は UEFI にのみ使用できます。 • **[Legacy_Only]**：スロット ***n*** のオプション ROM はレガシーにのみ使用できます。
[PCIe Mezzanine OptionROM] **set PcieMezzOptionROM**	PCIe メザニン スロットの拡張 ROM をサーバで使用できるかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：スロット ***M*** のオプション ROM は使用できません。 • [Enabled]：スロット ***M*** のオプション ROM は使用可能です。 • **[UEFI_Only]**：スロット ***M*** のオプション ROM は UEFI にのみ使用できます。 • **[Legacy_Only]**：拡張スロット ***M*** はレガシーにのみ使用できます。
[SIOC1 Link Speed] **Set PcieSlot1LinkSpeed**	System IO Controller 1（SIOC1）アドオン スロット 1 のリンク速度。 • [GEN1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN3]：デフォルトのリンク速度。 リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。 • [Disabled]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。

名前	説明
[SIOC2 Link Speed] **set PcieSlot2LinkSpeed**	System IO Controller 2（SIOC2）アドオン スロット 2 のリンク速度。 • [GEN1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN3]：デフォルトのリンク速度。 リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。 • [Disabled]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。
[Mezzリンク速度（Mezz Link Speed）] ドロップダウン リスト	リンク速度を拡張（メザニン）します。次のいずれかになります。 • [GEN 1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN 2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN 3]：デフォルトのリンク速度。リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。 • [Disabled]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。

[BIOS Configuration] ダイアログボックスのボタン バー

重要 このダイアログ ボックスのボタンは、表示しているタブのパラメータのみでなく、使用可能なすべてのタブのすべての BIOS パラメータに影響します。

名前	説明
[Save Changes] ボタン	3 つのタブすべての BIOS パラメータの設定を保存し、ダイアログボックスを閉じます。 **[Reboot Host Immediately]** チェックボックスがオフの場合、サーバはすぐにリブートされ、新しい BIOS 設定が有効になります。そうでない場合、変更内容はサーバが手動でリブートされるまで保存されます。
[Reset] ボタン	3 つのタブすべての BIOS パラメータの値を、このダイアログボックスを最初に開いたときに有効だった設定に復元します。
[Restore Defaults] ボタン	3 つのタブすべての BIOS パラメータをそのデフォルト値に設定します。

サーバ管理タブ

（注） このタブに記載されている BIOS のパラメータは、サーバによって異なります。

表 *1 : [*サーバ管理（*Server Management*）*]* タブの *BIOS* パラメータ

名前	説明
[Reboot Host Immediately] チェックボックス	[ホストを即座にリブート（Reboot Host Immediately）] チェックボックスがオフの場合、サーバはすぐにリブートされ、新しい BIOS 設定が有効になります。そうでない場合、変更内容はサーバが手動でリブートされるまで保存されます。
[OS ブート ウォッチドッグ タイマー ポリシー（OS Boot Watchdog Timer Policy）] ドロップダウン リスト **set OSBootWatchdogTimerPolicy**	ウォッチドッグ タイマーが切れた場合にシステムで実行されるアクション。次のいずれかになります。 • [電源オフ（Power Off）]：OS のブート中にウォッチドッグ タイマーの期限が切れた場合、サーバの電源がオフになります。 • [Reset]：OS のブート中にウォッチドッグ タイマーが切れた場合、サーバはリセットされます。 （注） このオプションは [OS Boot Watchdog Timer] を有効にする場合にのみ適用されます。

名前	説明
[OS ウォッチドッグ タイマー（OS Watchdog Timer）] ドロップダウン リスト **set OSBootWatchdogTimer**	BIOS が指定されたタイムアウト値でウォッチドッグ タイマーをプログラムするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：サーバのブートにかかる時間をトラッキングするためにウォッチドッグ タイマーは使用されません。 • [有効（enabled）]：サーバがブートにかかる時間をウォッチドッグ タイマーで追跡します。サーバのブートが [OS ブート ウォッチドッグ タイマー タイムアウト（OS Boot Watchdog Timer Timeout）] フィールドで指定された時間内に完了しない場合は、Cisco IMC によってエラーがログに記録され、[OS ブート ウォッチドッグ ポリシー（OS Boot Watchdog Policy）] フィールドで指定されたアクションが実行されます。
[OS ブート ウォッチドッグ タイマー タイムアウト（OS Watchdog Timer Timeout）] ドロップダウン リスト **set OSBootWatchdogTimerTimeOut**	OS が指定された時間内にブートしない場合、OS ウォッチドッグ タイマーの期限が切れ、システムはタイマーポリシーに基づいてアクションを実行します。次のいずれかになります。 • [5 分（5 Minutes）]：OS ウォッチドッグ タイマーは、ブートが開始されてから 5 分後に期限が切れます。 • [10 分（10 Minutes）]：OS ウォッチドッグ タイマーは、ブートが開始されてから 5 分後に期限が切れます。 • [15 分（15 Minutes）]：OS ウォッチドッグ タイマーは、ブートが開始されてから 5 分後に期限が切れます。 • [20 分（20 Minutes）]：OS ウォッチドッグ タイマーは、ブートが開始されてから 5 分後に期限が切れます。 （注） このオプションは [OS ブート ウォッチドッグ タイマー（OS Boot Watchdog Timer）] を有効にした場合にのみ適用されます。

名前	説明
[ボー レート（Baud Rate）] ドロップダウン リスト **set BaudRate**	シリアル ポートの伝送速度として使用されるボー レート。[Console Redirection] を無効にする場合は、このオプションを使用できません。次のいずれかになります。 • [9.6k]：9,600 ボー レートが使用されます。 • [19.2k]：19,200 ボー レートが使用されます。 • [38.4k]：38,400 ボー レートが使用されます。 • [57.6k]：57,600 ボー レートが使用されます。 • [115.2k]：115,200 ボー レートが使用されます。 この設定は、リモート ターミナル アプリケーション上の設定と一致している必要があります。
[コンソール リダイレクション（Console Redirection）] ドロップダウン リスト **set ConsoleRedir**	POST および BIOS のブート中に、シリアル ポートをコンソール リダイレクションに使用できるようにします。OS が起動した後は、コンソール リダイレクトは関係ありません。次のいずれかになります。 • [シリアル ポート A（Serial Port A）]：POST 中にシリアル ポート A でコンソール リダイレクションを有効にします。 • [シリアル ポート B（Serial Port B）]：POST 中にシリアル ポート B でコンソール リダイレクションを有効にします。 • [無効（Disabled）]：POST 中にコンソール リダイレクションは発生しません。

名前	説明
適応型メモリ トレーニング	このオプションを[有効（Enabled）]にすると、次のようになります。 メモリ トレーニングは毎回のブートでは実行されず、BIOSは、保存されたメモリ トレーニングの結果を毎回のリブートで使用します。 毎回のブートでメモリ トレーニングが実行されるいくつかの例外には、次のものがあります。 BIOS の更新、CMOS のリセット、CPU やメモリの設定変更、SPD または実行時の修正不可能なエラー、または、前回のブートから 24 時間以上経過している場合。 このオプションが [無効（Disabled）] の場合、毎回のブートでメモリ トレーニングが行われます。 デフォルト値：[有効（Enabled）]。 （注） [高速ブート（Fast Boot）] オプションを無効にするには、エンドユーザは次のトークンを下記の説明のとおりに設定する必要があります。 [適応型メモリ トレーニング（Adaptive Memory Training）]を [無効（Disabled）] に [BIOS Techlogレベル（BIOS Techlog level）] を [標準（Normal）] に [OptionROM起動最適化（OptionROM Launch Optimization）] を [無効（Disabled）] に

名前	説明
[BIOS Techlogレベル（BIOS Techlog Level）]	このオプションは、**BIOS tech ログファイル**のメッセージのタイプを示します。 ログファイルには、次のタイプのいずれかを指定できます。 • [最小（Minimum）]：重要なメッセージがログファイルに表示されます。 • [標準（Normal）]：警告およびロードメッセージがログファイルに表示されます。 • [最大（Maximum）]：標準に加え、情報関連のメッセージがログファイルに表示されます。 デフォルト値：[最小（Minimum）] （注） このオプションは、主に、内部のデバッグを目としています。
[OptionROM起動最適化（OptionROM Launch Optimization）]	このオプションが [有効（Enabled）] の場合、ブート順序のポリシーに存在するコントローラにのみ OptionROMs が起動されます。 （注） オンボード ストレージ コントローラ、Emulex FC アダプタおよび GPU コントローラなどのいくつかのコントローラについて、ブート順序のポリシーに含まれていなくても、OptionROM が起動されます。 このオプションが [無効（Disabled）] の場合、すべての OptionROMs が起動されます。 デフォルト値：[有効（Enabled）]
[CDN コントロール（CDN Control）] ドロップダウン リスト **set cdnEnable**	イーサネット ネットワークの命名規則が Consistent Device Naming（CDN）または従来の命名規則に従うかどうか。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：VIC カードの CDN サポートが無効になります • [有効（Enabled）]：VIC カードの CDN サポートが有効になります。

名前	説明
[FRB 2 タイマー（FRB 2 Timer）] ドロップダウン リスト **set FRB-2**	POST 中にシステムがハングした場合に、システムを回復するために Cisco IMC によって FRB2 タイマーが使用されるかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：FRB2 タイマーは使用されません。 • [Enabled]：POST 中に FRB2 タイマーが開始され、必要に応じてシステムの回復に使用されます。
[フロー制御（Flow Control）] ドロップダウン リスト **set FlowCtrl**	フロー制御にハンドシェイク プロトコルを使用するかどうか。送信要求/クリア ツー センド（RTS/CTS）を使用すると、隠れた端末問題が原因で発生する可能性があるフレーム コリジョンを減らすことができます。次のいずれかになります。 • [None]：フロー制御は使用されません。 • [RTS/CTS]：RTS/CTS がフロー制御に使用されます。 （注） この設定は、リモート ターミナル アプリケーション上の設定と一致している必要があります。
[ターミナル タイプ（Terminal Type）] ドロップダウン リスト **set TerminalType**	コンソール リダイレクションに使用される文字フォーマットのタイプ。次のいずれかになります。 • [PC-ANSI]：PC-ANSI 端末フォントが使用されます。 • [VT100]：サポートされている VT100 ビデオ端末とその文字セットが使用されます。 • [VT100-PLUS]：サポートされている VT100-plus ビデオ端末とその文字セットが使用されます。 • [VT-UTF8]：UTF-8 文字セットのビデオ端末が使用されます。

S3260 M4 サーバ

[Main] タブ

名前	説明
[Reboot Host Immediately] チェックボックス	オンにすると、ホスト サーバが直ちに再起動されます。このチェックボックスは、変更を保存してからオンにする必要があります。
[TPM Support]	TPM（トラステッドプラットフォーム モジュール）は、主に暗号キーを使用する基本的なセキュリティ関連機能を提供するように設計されたマイクロチップです。このオプションを使用すると、システムの TPM セキュリティ デバイス サポートを制御できます。次のいずれかを指定できます。 • [Disabled]：サーバは TPM を使用しません。 • [Enabled]：サーバは TPM を使用します。 （注） オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせることを推奨します。
[Power ON Password Support] ドロップダウン	このトークンでは、F2 BIOS 設定を使用する前に BIOS パスワードを設定する必要があります。有効にすると、IO 設定、BIOS セットアップ、BIOS を使用したオペレーティング システムへの起動など、BIOS 機能にアクセスする前にパスワードを検証する必要があります。次のいずれかを指定できます。 • [Disabled]：サポートはディセーブルになっています。 • [Enabled]：サポートはイネーブルになっています。

[Actions] 領域

名前	説明
[**Save**] ボタン	3 つのタブすべての BIOS パラメータの設定を保存し、ダイアログボックスを閉じます。 **[Reboot Host Immediately]** チェックボックスがオフの場合、サーバはすぐにリブートされ、新しい BIOS 設定が有効になります。そうでない場合、変更内容はサーバが手動でリブートされるまで保存されます。

名前	説明
[Reset] ボタン	3 つのタブすべての BIOS パラメータの値を、このダイアログボックスが最初に開いたときに有効であった設定にリセットします。
[Restore Defaults] ボタン	3 つのタブすべての BIOS パラメータをそのデフォルト値に設定します。

[Advanced] タブ

サーバ リブート オプション

[Save Changes] をクリックした後で変更内容を自動的に適用するには、**[Reboot Host Immediately]** チェックボックスをオンにします。Cisco IMCサーバをすぐに再起動して変更を適用します。

変更内容を後で適用するには、**[Reboot Host Immediately]** チェックボックスをオフにします。Cisco IMC変更を保存し、次回サーバを再起動する際に変更を適用します。

（注） 保留中の BIOS パラメータの変更がすでにある場合、Cisco IMC は、[Save Changes] をクリックしたときに、保存されている値を現在の設定で自動的に上書きします。

[Processor Configuration] のパラメータ

名前	説明
[Intel Hyper-Threading Technology] ドロップダウン リスト **set IntelHyperThread**	プロセッサでインテル ハイパースレッディング テクノロジーを使用するかどうか。このテクノロジーでは、マルチスレッド ソフトウェア アプリケーションのスレッドを各プロセッサ内で並列に実行できます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでのハイパースレッディングを禁止します。 • [Enabled]：プロセッサでの複数スレッドの並列実行を許可します。 オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせることを推奨します。

名前	説明
[有効化されたコア数（Number of Enabled Cores）] ドロップダウン リスト **set CoreMultiProcessing**	サーバ上の 1 つ以上の物理コアをディセーブルにできます。次のいずれかになります。 • [All]：すべての物理コアをイネーブルにします。これにより、関連付けられている論理プロセッサ コアで Hyper Threading もイネーブルになります。 • [1] ～ [*n*]：サーバで実行できる物理プロセッサ コアの数を指定します。各物理コアには、論理コアが関連付けられています。 オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせることを推奨します。
[Execute Disable] ドロップダウン リスト **set ExecuteDisable**	アプリケーション コードを実行できる場所を指定するために、サーバのメモリ領域を分類します。この分類の結果、悪意のあるワームがバッファにコードを挿入しようとした場合、プロセッサでコードの実行をディセーブルにします。この設定は、損害、ワームの増殖、および特定クラスの悪意のあるバッファ オーバーフロー攻撃を防止するのに役立ちます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでメモリ領域を分類しません。 • [Enabled]：プロセッサでメモリ領域を分類します。 オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせることを推奨します。

名前	説明
[Intel VT] **set IntelVT**	プロセッサで Intel Virtualization Technology（VT）を使用するかどうか。このテクノロジーでは、1つのプラットフォームで、複数のオペレーティング システムとアプリケーションをそれぞれ独立したパーティション内で実行できます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでの仮想化を禁止します。 • [Enabled]：プロセッサで、複数のオペレーティング システムをそれぞれ独立したパーティション内で実行できます。 （注） このオプションを変更した場合は、設定を有効にするためにサーバの電源を再投入する必要があります。
[Intel VT-d] **set IntelVTD**	Intel Virtualization Technology for Directed I/O（VT-d）をプロセッサで使用するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサで仮想化テクノロジーを使用しません。 • [Enabled]：プロセッサで仮想化テクノロジーを使用します。
[Intel VTD割り込み再マッピング（Intel VTD interrupt Remapping）] ドロップダウンリスト **set InterruptRemap**	プロセッサで Intel VT-d Interrupt Remapping をサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでリマッピングをサポートしません。 • [Enabled]：プロセッサで VT-d Interrupt Remapping を必要に応じて使用します。
[Intel VT-d PassThrough DMA] ドロップダウン リスト **set PassThroughDMA**	プロセッサで Intel VT-d Pass-through DMA をサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでパススルー DMA をサポートしません。 • [Enabled]：プロセッサで VT-d Pass-through DMA を必要に応じて使用します。

名前	説明
[Intel VT-d Coherency Support] **set CoherencySupport**	プロセッサで Intel VT-d Coherency をサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでコヒーレンシをサポートしません。 • [Enabled]：プロセッサで VT-d Coherency を必要に応じて使用します。
[Intel VT-d ATS Support] **set ATS**	プロセッサで Intel VT-d Address Translation Services（ATS）をサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサで ATS をサポートしません。 • [Enabled]：プロセッサで VT-d ATS を必要に応じて使用します。
[CPU Performance] **set CPUPerformance**	サーバの CPU パフォーマンス プロファイルを設定します。パフォーマンス プロファイルは次のオプションで構成されます。 • DCU Streamer Prefetcher • DCU IP Prefetcher • Hardware Prefetcher • Adjacent Cache-Line Prefetch 次のいずれかになります。 • [Enterprise]：すべてのオプションがイネーブルです。 • [High Throughput]：DCUIP Prefetcher のみが有効になります。残りのオプションはディセーブルになります。 • [HPC]：すべてのオプションが有効になります。この設定はハイ パフォーマンス コンピューティングとも呼ばれます。 • [Custom]：パフォーマンス プロファイルのすべてのオプションをサーバの BIOS セットアップから設定できます。また、Hardware Prefetcher オプションと Adjacent Cache-Line Prefetch オプションは、下記のフィールドで設定できます。

名前	説明
[ハードウェア プリフェッチャ（Hardware Prefetcher）] ドロップダウン リスト **set HardwarePrefetch**	プロセッサで、インテル ハードウェア プリフェッチャが必要に応じてデータおよび命令ストリームをメモリから取得し、統合 2 次キャッシュに入れることを許可するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：ハードウェア プリフェッチャは使用しません。 • [Enabled]：プロセッサで、キャッシュの問題が検出されたときにプリフェッチャを使用します。
[隣接キャッシュラインプリフェッチャ（Adjacent Cache Line Prefetcher）] ドロップダウン リスト **set AdjacentCacheLinePrefetch**	プロセッサで必要な行のみを取得するのではなく、偶数または奇数のペアのキャッシュ行を取得するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサで必要な行のみを取得します。 • [Enabled]：プロセッサで必要な行およびペアの行の両方を取得します。
[DCUストリーマープリフェッチ（DCU Streamer Prefetch）] ロップダウン リスト **set DcuStreamerPrefetch**	プロセッサで DCU IP プリフェッチ メカニズムを使用して履歴キャッシュ アクセス パターンを分析し、L1 キャッシュ内で最も関連性の高い行をプリロードします。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサはキャッシュ読み取り要求を予測しようとせず、明示的に要求された行のみを取得します。 • [Enabled]：DCU Prefetcher でキャッシュ読み取りパターンを分析し、必要と判断した場合にキャッシュ内の次の行を事前に取得します。
[DCU IPプリフェッチャ（DCU IP Prefetcher）] ドロップダウン リスト **set DcuIpPrefetch**	プロセッサで DCU IP プリフェッチ メカニズムを使用して履歴キャッシュ アクセス パターンを分析し、L1 キャッシュ内で最も関連性の高い行をプリロードします。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでキャッシュ データをプリロードしません。 • [Enabled]：DCU IP プリフェッチャで最も関連性が高いと判断されたデータを含むL1 キャッシュをプリロードします。

名前	説明
[ダイレクトキャッシュアクセスサポート（Direct Cache Access Support）] ドロップダウン リスト **set DirectCacheAccess**	プロセッサで、データをI/Oデバイスから直接プロセッサ キャッシュに入れることにより、I/O パフォーマンスを向上させることができます。この設定はキャッシュミスを減らすのに役立ちます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：データはI/Oデバイスから直接プロセッサ キャッシュには入れられません。 • [Enabled]：データはI/Oデバイスから直接プロセッサ キャッシュに入れられます。
[Power Technology] **set CPUPowerManagement**	次のオプションのCPU電源管理設定を指定できます。 • [Enhanced Intel Speedstep Technology] • [Intel Turbo Boost Technology] • [Processor Power State C6] [Power Technology] は次のいずれかになります。 • [Custom]：前述のBIOSパラメータの個々の設定が使用されます。これらの BIOS パラメータのいずれかを変更する場合は、このオプションを選択する必要があります。 • [Disabled]：サーバでCPU電源管理は実行されず、前述の BIOS パラメータの設定が無視されます。 • [Energy Efficient][Energy_Efficient]：前述の BIOS パラメータに最適な設定が決定され、これらのパラメータの個々の設定は無視されます。

名前	説明
[Enhanced Intel Speedstep Technology] ドロップダウン リスト **set EnhancedIntelSpeedStep**	プロセッサで拡張版 Intel SpeedStep テクノロジーを使用するかどうか。このテクノロジーでは、プロセッサの電圧やコア周波数をシステムが動的に調整できます。このテクノロジーにより、平均電力消費量と平均熱発生量が減少する可能性があります。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサの電圧または周波数を動的に調整しません。 • [Enabled]：プロセッサで Enhanced Intel SpeedStep Technology が使用され、サポートされているすべてのスリープ状態でさらに電力を節約することが可能になります。 オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせることを推奨します。 （注） [Power Technology][CPUPowerManagement] を [Custom] に設定する必要があります。そのようにしない場合、このパラメータの設定は無視されます。
[Intel Turbo Boost Technology] **set IntelTurboBoostTech**	プロセッサでインテル ターボ ブーストテクノロジーを使用するかどうか。このテクノロジーでは、仕様よりも低い電力、温度、または電圧でプロセッサが動作していると、自動的にそのプロセッサの周波数が上がります。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサの周波数は自動的には上がりません。 • [Enabled]：必要に応じてプロセッサで Turbo Boost Technology が利用されます。 （注） [Power Technology][CPUPowerManagement] を [Custom] に設定する必要があります。そのようにしない場合、このパラメータの設定は無視されます。

名前	説明
[Processor C3 Report] **set ProcessorC3Report**	BIOS からオペレーティング システムに C3 レポートを送信するかどうか。OS はレポートを受信すると、プロセッサを電力量の少ない C3 状態に移行してエネルギー使用量を減らし、最適なプロセッサ パフォーマンスを維持できます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：BIOS は C3 レポートの送信を行いません。 • [Enabled]：BIOS から C3 レポートを送信し、OS がプロセッサを電力量の少ない C3 状態に移行できるようにします。 （注） [Power Technology][CPUPowerManagement] を [Custom] に設定する必要があります。そのようにしない場合、このパラメータの設定は無視されます。
[Processor C6 Report] **set ProcessorC6Report**	BIOS からオペレーティング システムに C6 レポートを送信するかどうか。OS はレポートを受信すると、プロセッサを電力量の少ない C6 状態に移行してエネルギー使用量を減らし、最適なプロセッサ パフォーマンスを維持できます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：BIOS から C6 レポートを送信しません。 • [Enabled]：BIOS から C6 レポートを送信し、OS がプロセッサを電力量の少ない C6 状態に移行できるようにします。 （注） [Power Technology][CPUPowerManagement] を [Custom] に設定する必要があります。そのようにしない場合、このパラメータの設定は無視されます。
[プロセッサの電源状態C1拡張（Processor Power State C1 Enhanced）] ドロップダウン リスト **set ProcessorC1EReport**	C1 ステートに入ったときに、CPU が最小周波数に移行するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：CPU は C1 ステートでも引き続き最大周波数で動作します。 • [Enabled]：CPU は最小周波数に移行します。このオプションでは C1 ステートで節約される電力量が最大になります。

名前	説明
[P-STATE調整（P-STATE Coordination）] ドロップダウン リスト **set PsdCoordType**	BIOS がオペレーティング システムに P-state サポート モデルを伝達する方法を定義できます。Advanced Configuration and Power Interface（ACPI）仕様では、次の 3 つのモデルが定義されています。 • [HW_ALL]：プロセッサ ハードウェアによって、依存関係にある論理プロセッサ（パッケージ内のすべての論理プロセッサ）間の P-state を調整します。 • [SW_ALL]：OS Power Manager（OSPM）によって、依存関係にある論理プロセッサ（物理パッケージ内のすべての論理プロセッサ）間の P-state を調整します。すべての論理プロセッサで遷移を開始する必要があります。 • [SW_ANY]：OS Power Manager（OSPM）によって、依存関係にある論理プロセッサ（パッケージ内のすべての論理プロセッサ）間の P-state を調整します。ドメイン内の任意の論理プロセッサで遷移を開始できます。 （注） [Power Technology][CPUPowerManagement] を [Custom] に設定する必要があります。そのようにしない場合、このパラメータの設定は無視されます。
[Boot Performance Mode] ドロップダウン リスト **set BootPerformanceMode**	オペレーティング システムのハンドオフ前に設定されている BIOS のパフォーマンス状態をユーザが選択できるようになります。次のいずれかになります。 • [Max Performance]：プロセッサの P-state 率は最大です • [Max Efficient]：プロセッサの P-state 率は最小です
[エネルギーパフォーマンスの調整（Energy Performance Tuning）] ドロップダウン リスト **set PwrPerfTuning**	エネルギー効率のバイアス調整のために BIOS またはオペレーティング システムを選択できます。次のいずれかになります。 • [OS]：エネルギー効率の調整のために OS を選択します。 • [BIOS]：エネルギー効率の調整のために BIOS を選択します。

名前	説明
[エネルギーパフォーマンス（Energy Performance）] ドロップダウン リスト **set CpuEngPerfBias**	システム パフォーマンスまたはエネルギー効率がこのサーバで重要かどうかを判断できます。次のいずれかになります。 • **Balanced_Energy** • **Balanced_Performance** • **Energy_Efficient** • **Performance**
[パッケージのCステートの制限（Package C State Limit）] ドロップダウン リスト **set PackageCStateLimit**	アイドル時にサーバ コンポーネントが使用できる電力量。次のいずれかになります。 • [C0 state][C0_state]：サーバはすべてのサーバコンポーネントに常にフル パワーを提供します。このオプションでは、最高レベルのパフォーマンスが維持され、最大量の電力が必要となります。 • [C1 state][C1_state]：CPUのアイドル時に、システムは電力消費を少し減らします。 このオプションでは、必要な電力がC0よりも少なく、サーバはすばやくハイ パフォーマンス モードに戻ることができます。 • [C3 state][C3_state]：CPUのアイドル時に、システムはC1オプションの場合よりもさらに電力消費を減らします。この場合、必要な電力はC1またはC0よりも少なくなりますが、サーバがハイ パフォーマンス モードに戻るのに要する時間が少し長くなります。 • [C6 state][C6_state]：CPUのアイドル時に、システムはC3オプションの場合よりもさらに電力消費を減らします。このオプションを使用すると、C0、C1、またはC3よりも電力量が節約されますが、サーバがフルパワーに戻るまでにパフォーマンス上の問題が発生する可能性があります。 • [C7 state][C7_state]：CPUのアイドル時に、サーバはコンポーネントが使用できる電力量を最小にします。 このオプションでは、節約される電力量が最大になりますが、サーバがハイ パフォーマンス モードに戻るのに要する時間も最も長くなります。 • [No Limit][No_Limit]：サーバは、使用可能な任意のC ステートに入ることがあります。

名前	説明
[Extended APIC] **set LocalX2Apic**	拡張 APIC サポートをイネーブルまたはディセーブルにできます。次のいずれかになります。 • [XAPIC]：APIC サポートを有効にします。 • [X2APIC]：APIC を有効にして、Intel VT-d と Interrupt Remapping も有効にします。
[Workload Configuration] **set WorkLdConfig**	ワークロードの特性を最適化するようにパラメータを設定できます。次のいずれかになります。 • [Balanced]：バランスをとる最適化オプションを選択します。 • [I/O Sensitive]：I/O を優先する最適化オプションを選択します。 （注） ワークロード構成は [Balanced] に設定することをお勧めします。
[CPU HWPM] ドロップダウンリスト **set HWPMEnable**	ハードウェア電源管理（HWPM）インターフェイスを有効にして、CPU のパフォーマンスとエネルギー効率を向上させます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：P-State は、先行プロセッサ世代と同じように制御されます。 • [Native Mode]：HWPM は、ソフトウェア インターフェイスを介してオペレーティング システムと連携します。 • [OOB Mode]：CPU は、オペレーティング システムのエネルギー効率に基づいて自律的に周波数を制御します。
[CPU Autonomous Cstate] ドロップダウン リスト **set AutonumousCstateEnable**	HALT 命令を MWAIT 命令に変換する CPU Autonomous C-State を有効にします。次のいずれかになります。 • [Disabled]：CPU Autonomous C-state が無効です。これはデフォルト値です。 • [Enabled]：CPU Autonomous C-state が有効です。

名前	説明
[Processor CMCI] ドロップダウン リスト **set CmciEnable**	CPU が修正されたマシン チェック イベントで割り込みをトリガーできるようにします。修正されたマシン チェック割り込み（CMCI）により、従来のポーリング タイマーよりも速い反応が可能になります。次のいずれかになります。 • [Disabled]：CMCI を無効にします。 • [Enabled]：CMCI を有効にします。これはデフォルト値です。

[Memory Configuration] のパラメータ

名前	説明
[Select Memory RAS] **set SelectMemoryRAS**	サーバに対するメモリの信頼性、可用性および機密性（RAS）の設定方法。次のいずれかになります。 • [Maximum Performance][Maximum_Performance]：システムのパフォーマンスが最適化されます。 • [Mirroring]：システムのメモリの半分をバックアップとして使用することにより、システムの信頼性が最適化されます。 • [Lockstep]：サーバ内の DIMM ペアが、同一のタイプ、サイズ、および構成を持ち、SMI チャネルにまたがって装着されている場合、ロックステップ モードを有効にして、メモリ アクセス遅延の最小化およびパフォーマンスの向上を実現できます。このオプションを使用した場合、[Mirroring] よりもシステム パフォーマンスが向上し、[Maximum Performance] よりも信頼性が向上しますが、[Mirroring] よりも信頼性が低く、[Maximum Performance] よりもシステム パフォーマンスは低下します。
[NUMA] ドロップダウン リスト **set NUMAOptimize**	BIOS で Non-Uniform Memory Access（NUMA）がサポートされているかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：BIOS で NUMA をサポートしません。 • [Enabled]：NUMA に対応したオペレーティング システムに必要な ACPI テーブルを BIOS に含めます。このオプションを有効にする場合は、一部のプラットフォームでシステムのソケット間メモリ インターリーブを無効にする必要があります。

名前	説明
[チャネルインターリーブ（Channel Interleaving）] ドロップダウン リスト **set ChannelInterLeave**	CPU がメモリ ブロックを分割して、インターリーブされたチャネル間にデータの連続部分を分散し、同時読み取り動作を有効にするかどうか。次のいずれかになります。 • [Auto]：実行するインターリーブを、CPU が決定します。 • [1Way][1_Way]：一部のチャネル インターリーブが使用されます。 • [2Way][2_Way] • [3Way][3_Way] • [4Way][4_Way]：最大のチャネル インターリーブが使用されます。
[Rank Interleaving] **set RankInterLeave**	1 つのランクを更新中に別のランクにアクセスできるよう、CPU がメモリの物理ランクをインターリーブするかどうか。次のいずれかになります。 • [Auto]：実行するインターリーブを、CPU が決定します。 • [1Way][1_Way]：一部のランク インターリーブが使用されます。 • [2Way][2_Way] • [4Way][4_Way] • [8Way][8_Way]：最大量のランク インターリーブが使用されます。

サーバ モデル別 BIOS パラメータ

名前	説明
[Patrol Scrub] **set PatrolScrub**	システムがサーバ上のメモリの未使用部分でも単一ビット メモリ エラーをアクティブに探して訂正するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：CPUがメモリ アドレスの読み取りまたは書き込みを行うときのみ、システムはメモリのECC エラーをチェックします。 • [Enabled]：システムは定期的にメモリを読み書きして ECC エラーを探します。エラーが見つかると、システムは修正を試みます。このオプションにより、単一ビット エラーは複数ビット エラーになる前に修正される場合がありますが、パトロール スクラブの実行時にパフォーマンスが低下する場合もあります。
[デマンドスクラブ（Demand Scrub）] ドロップダウン リスト **set DemandScrub**	CPU または I/O から読み取り要求があった時に発生したシングル ビット メモリ エラーを、システムで修正するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：シングル ビット メモリ エラーは修正されません。 • [Enabled]：シングル ビット メモリ エラーがメモリ内部で修正され、修正されたデータが読み取り要求に応じて設定されます。
[高度（Altitude）] ドロップダウン リスト **set Altitude**	物理サーバがインストールされている地点のおよその海抜（m 単位）。次のいずれかになります。 • [Auto]：物理的な高度をCPUによって判別します。 • [300M][300_M]：サーバは海抜約 300 m の位置にあります。 • [900M][900_M]：サーバは海抜約 900 m の位置にあります。 • [1500M][1500_M]：サーバは海抜約 1500 m の位置にあります。 • **[3000_M]**：サーバは、海抜約 3000 m です。

[QPI Configuration] のパラメータ

名前	説明
[QPI Link Frequency Select] **set QPILinkFrequency**	Intel QuickPath Interconnect（QPI）リンク周波数（ギガトランスファー/秒（GT/s）単位）。次のいずれかになります。 • [Auto]：QPI リンク周波数はCPUによって決定されます。 • **6.4_GT/s** • 7.2_GT/s] • **8.0_GT/s**
[QPI Snoop Mode] **set QpiSnoopMode**	Intel QuickPath Interconnect（QPI）スヌープ モード。次のいずれかになります。 • [ホーム スヌープ（Home Snoop）]：スヌープは、常に、メモリ コントローラのホーム エージェント（集中型リング停止）によって起動されます。このモードは、早期スヌープよりローカル遅延が多くなりますが、未処理トランザクションが増えた場合に予備のリソースを使用できます。 • [クラスタ オン ダイ（Cluster on Die）]：クラスタ オン ダイが有効になります。有効な LLC が 2 つの部分に分割され、それぞれに個別のキャッシュ エージェントが設定されます。これにより、一部のワークロードのパフォーマンスが向上します。このモードは、コアが10以上のプロセッサでのみ使用できます。高度にNUMA最適化されたワークロードに最適なモードです。 • [早期スヌープ（Early Snoop）]：分散キャッシュ リング停止で、別のキャッシング エージェントにスヌープ プローブまたは要求を直接送信できます。このモードは、遅延が少なく、スレッド全体でデータ セットを共有しているためにキャッシュ間転送からメリットが得られるワークロードやNUMA最適化されていないワークロードに最適です。

[USB Configuration] のパラメータ

名前	説明
[レガシーUSBサポート（Legacy USB Support）] ドロップダウン リスト **set LegacyUSBSupport**	システムでレガシーUSBデバイスをサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：USB デバイスは、EFI アプリケーションでのみ使用できます。 • [Enabled]：レガシー USB のサポートは常に使用できます。 • [Auto]：USBデバイスが接続されていない場合、レガシー USB のサポートがディセーブルになります。
[Port 60/64 Emulation] **set UsbEmul6064**	完全なUSBキーボードレガシーサポートのために60h/64hエミュレーションをシステムでサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：60h/64 エミュレーションはサポートされません。 • [Enabled]：60h/64エミュレーションはサポートされます。 サーバでUSB非対応オペレーティング システムを使用する場合は、このオプションを選択する必要があります。
[xHCI Mode] **set PchUsb30Mode**	xHCIコントローラのレガシーサポートを有効または無効にします。次のいずれかになります。 • [Disabled]：xHCI コントローラのレガシー サポートが無効になります。 • [Enabled]：xHCIコントローラのレガシーサポートが有効になります。
[xHCI Legacy Support] ドロップダウン リスト **set UsbXhciSupport**	システムでレガシーxHCIコントローラをサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：xHCI レガシーのサポートが無効になります。 • [Enabled]：xHCI レガシーのサポートが有効になります。これはデフォルト値です。
[すべてのUSBデバイス（All USB Devices）] ドロップダウン リスト **set AllUsbDevices**	すべての物理および仮想USBデバイスを有効にするか無効にするか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：すべての USB デバイスが無効になります。 • [Enabled]：すべての USB デバイスが有効になります。

名前	説明
[USB Port: Rear] **set UsbPortRear**	背面パネルの USB デバイスを有効にするか無効にするか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：背面パネルの USB ポートを無効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されません。 • [Enabled]：背面パネルの USB ポートを有効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されます。
[USB Port: KVM] **set UsbPortKVM**	KVM ポートを有効にするか無効にするか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：KVM キーボードおよびマウス デバイスを無効にします。キーボードとマウスは KVM ウィンドウで機能しなくなります。 • [Enabled]：KVM キーボードおよびマウス デバイスを有効にします。
[USB Port: vMedia] **set UsbPortVMedia**	仮想メディア デバイスを有効にするか無効にするか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：vMedia デバイスを無効にします。 • [Enabled]：vMedia デバイスを有効にします。

[PCI Configuration] のパラメータ

名前	説明
[Memory Mapped I/O Above 4GB] **set MemoryMappedIOAbove4GB**	4GB を超える MMIO をイネーブルまたはディセーブルにするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：サーバでは 64 ビット PCI デバイスの I/O を 4 GB 以上のアドレス空間にマッピングしません。 • [Enabled]：サーバで 64 ビット PCI デバイスの I/O を 4 GB 以上のアドレス空間にマッピングします。 （注） PCI デバイスが 64 ビット対応でも、レガシーなオプション ROM を使用する場合は、この設定をイネーブルにしても正しく機能しない場合があります。

名前	説明
[Sriov] **set SrIov**	サーバ上で SR-IOV（Single Root I/O Virtualization）を有効にするか無効にするか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：SR-IOV は無効になります。 • [Enabled]：SR-IOV は有効になります。

[Serial Configuration] のパラメータ

名前	説明
[Out-of-Band Mgmt Port] **set comSpcrEnable**	Windows 緊急管理サービスで使用可能な COM ポート 0 を設定することができます。このセットアップ オプションに基づいて ACPI SPCR テーブルが報告されます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：Windows オペレーティング システムで使われる汎用ポートとして COM ポート 0 を設定します。 • [Enabled]：Windows 緊急管理サービス用のリモート管理ポートとして COM ポート 0 を設定します。
[コンソールリダイレクション（Console redirection）] ドロップダウン リスト **set ConsoleRedir**	POST および BIOS のブート中に、シリアル ポートをコンソール リダイレクションに使用できるようにします。BIOS のブートが完了し、オペレーティング システムがサーバを担当すると、コンソール リダイレクションは関連がなくなり、無効になります。次のいずれかになります。 • [Disabled]：POST 中にコンソール リダイレクションは発生しません。 • [COM 0]：POST中に COM ポート 0 でコンソール リダイレクションを有効にします。 • [COM 1]：POST中に COM ポート 1 でコンソール リダイレクションを有効にします。

名前	説明
[Terminal type] **set TerminalType**	コンソール リダイレクションに使用される文字フォーマットのタイプ。次のいずれかになります。 • [PC-ANSI]：PC-ANSI 端末フォントが使用されます。 • [VT100]：サポートされている vt100 ビデオ端末とその文字セットが使用されます。 • [VT100+]：サポートされている vt100-plus ビデオ端末とその文字セットが使用されます。 • [VT-UTF8]：UTF-8 文字セットのビデオ端末が使用されます。 （注） この設定は、リモート ターミナル アプリケーション上の設定と一致している必要があります。
[Bits per second] **set BaudRate**	シリアル ポートの伝送速度として使用されるボー レート。[Console Redirection] を無効にする場合は、このオプションを使用できません。次のいずれかになります。 • [9600]：9,600 ボー レートが使用されます。 • [19200]：19,200 ボー レートが使用されます。 • [38400]：38,400 ボー レートが使用されます。 • [57600]：57,600 ボー レートが使用されます。 • [115200]：115,200 ボー レートが使用されます。 （注） この設定は、リモート ターミナル アプリケーション上の設定と一致している必要があります。
[フロー制御（Flow Control）] ドロップダウン リスト **set FlowCtrl**	フロー制御にハンドシェイク プロトコルを使用するかどうか。送信要求/クリア ツーセンド（RTS/CTS）を使用すると、隠れた端末問題が原因で発生する可能性があるフレーム コリジョンを減らすことができます。次のいずれかになります。 • [None]：フロー制御は使用されません。 • **Hardware_RTS/CTS**：フロー制御に RTS/CTS が使用されます。 （注） この設定は、リモート ターミナル アプリケーション上の設定と一致している必要があります。

名前	説明
[Putty KeyPad] **set PuttyFunctionKeyPad**	PuTTY ファンクション キーおよびテンキーの最上段のキーのアクションを変更できます。次のいずれかになります。 • [VT100]：ファンクション キーによって **ESC OP** ～ **ESC O[** を生成します。 • [LINUX]：Linux 仮想コンソールを模倣します。ファンクション キー F6 ～ F12 はデフォルト モードと同様に動作しますが、F1 ～ F5 は **ESC [[A** ～ **ESC [[E** を生成します。 • [XTERMR6]：ファンクション キー F5 ～ F12 がデフォルト モードと同様に動作します。ファンクション キー F1 ～ F4 によって ESC OP ～ ESC OS を生成します。これはデジタル端末のキーパッドの上段によって生成されるシーケンスです。 • [SCO]：ファンクション キー F1 ～ F12 によって **ESC [M** ～ **ESC [X** を生成します。ファンクション キーと Shift キーによって **ESC [Y** ～ **ESC [j** を生成します。Ctrl キーとファンクション キーによって **ESC [k** ～ **ESC [v** を生成します。Shift、Ctrl およびファンクション キーによって **ESC [w** ～ **ESC [{** を生成します。 • **[ESCN]**：デフォルト モードです。ファンクション キーはデジタル端末の一般的な動作と一致します。ファンクション キーによって **ESC [11~** や **ESC [12~** などのシーケンスを生成します。 • [VT400]：ファンクション キーがデフォルト モードと同様に動作します。テンキーの最上段のキーによって **ESC OP** ～ **ESC OS** を生成します。
[Redirection After BIOS POST] **set RedirectionAfterPOST**	BIOS POST が完了し、OS ブートローダに制御が渡された後に、BIOS コンソール リダイレクションがアクティブであるかどうか。次のいずれかになります。 • [Always Enable]：OSのブートおよび実行時に BIOS レガシー コンソール リダイレクションがアクティブになります。 • [Bootloader]：OS ブートローダに制御が渡される前に BIOS レガシー コンソール リダイレクションがディセーブルになります。

[LOM and PCIe Slots Configuration] のパラメータ

名前	説明
[VICに対するCDNサポート（CDN Support for VIC）] ドロップダウン リスト **set CdnEnable**	イーサネット ネットワークの命名規則が Consistent Device Naming（CDN）または従来の命名規則に従うかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：VIC カードの CDN サポートが無効になります。 • [Enabled]：VIC カードの CDN サポートが有効になります。 （注） VIC カードの CDN サポートは、Windows 2012 または最新の OS でのみ機能します。
[PCI ROM CLP] **set PciRomClp**	PCI ROM Command Line Protocol（CLP）は、カード上の iSCSI や PxE などのさまざまなオプション ROM の実行を制御します。デフォルトでは、無効になっています。 • [Enabled]：ポートごとに個別に、iSCSI や PxE などのさまざまなオプション ROM の実行を制御できるようにします。 • [Disabled]：デフォルト オプションです。異なるオプション ROM は選択できません。デフォルト オプション ROM は PCI 列挙中に実行されます。
[All PCIe Slots OptionROM] **set PcieOptionROMs**	PCIe カードのオプション ROM をサーバが使用できるかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：スロット ***n*** のオプション ROM は使用できません。 • [Enabled]：スロット ***n*** のオプション ROM は使用可能です。 • **[UEFI_Only]**：スロット ***n*** のオプション ROM は UEFI にのみ使用できます。 • **[Legacy_Only]**：スロット ***n*** のオプション ROM はレガシーにのみ使用できます。

名前	説明
[PCH SATA Mode] **set SataModeSelect**	このオプションでは、PCH SATA モードを選択できます。次のいずれかになります。 • [AHCI]：SATA コントローラと sSATA コントローラの両方を AHCI モードに設定します。 • [Disabled]：SATA コントローラと sSATA コントローラを無効にします。 • [LSI SW Raid]：SATA コントローラと sSATA コントローラを LSI SW Raid の raid モードに設定します。
set SBNVMe1OptionROM	SBNVMe1 コントローラのオプション ROM をサーバが使用できるかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：SBNVMe1 コントローラのオプション ROM は使用できません。 • [Enabled]：SBNVMe1 コントローラのオプション ROM を使用できます。 • **[UEFI_Only]**：スロットのオプション ROM は UEFI にのみ使用できます。 • **[Legacy_Only]**：スロットのオプション ROM はレガシーにのみ使用できます。
[SIOC1 OptionROM] **set SIOC1OptionROM**	システム I/O コントローラ 1（SIOC1）のオプション ROM をサーバが使用できるかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：システム I/O コントローラ 1（SIOC1）のオプション ROM は使用できません。 • [Enabled]：システム I/O コントローラ 1（SIOC1）のオプション ROM を使用できます。 • **[UEFI_Only]**：スロットのオプション ROM は UEFI にのみ使用できます。 • **[Legacy_Only]**：スロットのオプション ROM はレガシーにのみ使用できます。

名前	説明
[SIOC2 OptionROM] **set SIOC2OptionROM**	システム I/O コントローラ 2（SIOC2）のオプション ROM をサーバが使用できるかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：システム I/O コントローラ 2（SIOC2）のオプション ROM は使用できません。 • [Enabled]：システム I/O コントローラ 2（SIOC2）のオプション ROM を使用できます。 • **[UEFI_Only]**：スロットのオプション ROM は UEFI にのみ使用できます。 • **[Legacy_Only]**：スロットのオプション ROM はレガシーにのみ使用できます。
set SBMezz1OptionROM	SBMezz1 コントローラのオプション ROM をサーバが使用できるかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：SBMezz1 コントローラのオプション ROM は使用できません。 • [Enabled]：SBMezz1 コントローラのオプション ROM を使用できます。 • **[UEFI_Only]**：スロットのオプション ROM は UEFI にのみ使用できます。 • **[Legacy_Only]**：スロットのオプション ROM はレガシーにのみ使用できます。
[SBMezz2 OptionROM] ドロップダウン リスト **set SBMezz2OptionROM**	サーバが SBMezz2 コントローラで使用可能なオプション ROM を使用できるかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：SBMezz 2 コントローラのオプション ROM は使用できません。 • [Enabled]：SBMezz 2 コントローラのオプション ROM を使用できます。 • [UEFI Only]：スロットのオプション ROM は UEFI にのみ使用できます。 • [Legacy Only]：スロットのオプション ROM はレガシーにのみ使用できます。

名前	説明
set IOESlot1OptionROM	オプション ROM が IOE スロット 1 で有効かどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：オプション ROM が無効です。 • [Enabled]：デフォルト値。オプション ROM が有効です。 • [UEFI Only]：スロット 1 オプション ROM は UEFI にのみ使用できます。 • [Legacy Only]：スロット 1 オプション ROM はレガシーにのみ使用できます。
set IOEMezz1OptionROM	オプション ROM が IOE Mezz1 で有効かどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：オプション ROM が無効です。 • [Enabled]：デフォルト値。オプション ROM が有効です。 • [UEFI Only]：Mezz1 オプション ROM を使用できるのは UEFI のみです。 • [Legacy Only]：Mezz1 オプション ROM はレガシーにのみ使用できます。
set IOESlot2OptionROM	オプション ROM が IOE スロット 2 で有効かどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：オプション ROM が無効です。 • [Enabled]：デフォルト値。オプション ROM が有効です。 • [UEFI Only]：スロット 2 オプション ROM は UEFI にのみ使用できます。 • [Legacy Only]：スロット 2 オプション ROM はレガシーにのみ使用できます。
set IOENVMe1OptionROM	オプション ROM が IOE NVMe1 で有効かどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：オプション ROM が無効です。 • [Enabled]：デフォルト値。オプション ROM が有効です。 • [UEFI Only]：Mezz1 オプション ROM を使用できるのは UEFI のみです。 • [Legacy Only]：Mezz1 オプション ROM はレガシーにのみ使用できます。

名前	説明
set IOENVMe2OptionROM	オプション ROM が IOE NVMe2 で有効かどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：オプション ROM が無効です。 • [Enabled]：デフォルト値。 オプション ROM が有効です。 • [UEFI Only]：Mezz1 オプション ROM を使用できるのは UEFI のみです。 • [Legacy Only]：Mezz1 オプション ROM はレガシーにのみ使用できます。
[SBNVMe1 Link Speed] **Set SBNVMe1LinkSpeed**	SBNVMe1 アドオン スロット 1 のリンク速度。 • [Auto]：リンク速度は自動的に割り当てられます。 • **[GEN1]**：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • **[GEN2]**：デフォルトのリンク速度。リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • **[GEN3]**：リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。 • **[Disabled]**：スロットは無効であり、カードは列挙されません。
[SIOC1 Link Speed] **Set PcieSlot1LinkSpeed**	System IO Controller 1（SIOC1）アドオン スロット 1 のリンク速度。 • [GEN1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN3]：デフォルトのリンク速度。 リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。 • [Disabled]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。

名前	説明
[SIOC2 Link Speed] **set PcieSlot2LinkSpeed**	System IO Controller 2（SIOC2）アドオン スロット 2 のリンク速度。 • [GEN1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN3]：デフォルトのリンク速度。 リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。 • [Disabled]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。
[SBMezz1 Link Speed] **set SBMezz1LinkSpeed**	SBMezz1 アドオン スロット 1 のリンク速度。 • [Auto]：リンク速度は自動的に割り当てられます。 • **[GEN1]**：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • **[GEN2]**：デフォルトのリンク速度。 リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • **[GEN3]**：リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。 • **[Disabled]**：スロットは無効であり、カードは列挙されません。
[SBMezz2 Link Speed] ドロップダウン リスト **set SBMezz2LinkSpeed**	SBMezz2 アドオン スロット 2 のリンク速度を割り当てます。次のいずれかになります。 • [Auto]：デフォルト値。 スロットが有効になります。 • [GEN 1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN 2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN 3]：リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。 • [Disabled]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。

名前	説明
set IOESlot1LinkSpeed	スロット 1 リンク速度。次のいずれかになります。 • [Auto]：デフォルト値。 スロットが有効になります。 • [GEN 1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN 2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN 3]：リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。 • [Disabled]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。
set IOEMezz1LinkSpeed	Mezz1 リンク速度。次のいずれかになります。 • [Auto]：デフォルト値。 スロットが有効になります。 • [GEN 1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN 2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN 3]：リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。 • [Disabled]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。
set IOESlot2LinkSpeed	スロット 2 リンク速度。次のいずれかになります。 • [Auto]：デフォルト値。 スロットが有効になります。 • [GEN 1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN 2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN 3]：リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。 • [Disabled]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。
set IOENVMe1LinkSpeed	NVMe1 リンク速度。次のいずれかになります。 • [Auto]：デフォルト値。 スロットが有効になります。 • [GEN 1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN 2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN 3]：リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。 • [Disabled]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。

名前	説明
set IOENVMe2LinkSpeed	NVMe2 リンク速度。次のいずれかになります。 • [Auto]：デフォルト値。 スロットが有効になります。 • [GEN 1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN 2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN 3]：リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。 • [Disabled]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。

[BIOS Configuration] ダイアログボックスのボタン バー

重要 このダイアログ ボックスのボタンは、表示しているタブのパラメータのみでなく、使用可能なすべてのタブのすべての BIOS パラメータに影響します。

名前	説明
[Save Changes] ボタン	3 つのタブすべての BIOS パラメータの設定を保存し、ダイアログボックスを閉じます。 **[Reboot Host Immediately]** チェックボックスがオフの場合、サーバはすぐにリブートされ、新しい BIOS 設定が有効になります。そうでない場合、変更内容はサーバが手動でリブートされるまで保存されます。
[Reset Values] ボタン	3 つのタブすべての BIOS パラメータの値を、このダイアログボックスを最初に開いたときに有効だった設定に復元します。
[Restore Defaults] ボタン	3 つのタブすべての BIOS パラメータをそのデフォルト値に設定します。
[Cancel] ボタン	変更を行わずにダイアログボックスを閉じます。

[Server Management] タブ

サーバ管理 BIOS パラメータ

名前	説明
[FRB-2 Timer] **set FRB-2**	POST 中にシステムがハングアップした場合に、システムを回復するために Cisco IMC で FRB2 タイマーを使用するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：FRB2 タイマーは使用されません。 • [Enabled]：POST 中に FRB2 タイマーが開始され、必要に応じてシステムの回復に使用されます。
[OS ウォッチドッグ タイマー（OS Watchdog Timer）] ドロップダウン リスト **set OSBootWatchdogTimer**	BIOS が指定されたタイムアウト値でウォッチドッグ タイマーをプログラムするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：サーバのブートにかかる時間をトラッキングするためにウォッチドッグ タイマーは使用されません。 • [Enabled]：サーバのブートにかかる時間をウォッチドッグ タイマーでトラッキングします。サーバが [OS Boot Watchdog Timer Timeout] フィールドに指定された時間**set OSBootWatchdogTimerTimeout** コマンドにより、Cisco IMC はエラーをログに記録し、**set OSBootWatchdogTimerPolicy** コマンドで指定されたアクションを実行します。

名前	説明
[OSウォッチドッグタイマータイムアウト（OS Watchdog Timer Timeout）] ドロップダウン リスト **set OSBootWatchdogTimerTimeOut**	OSが指定された時間内にブートしない場合、OSウォッチドッグ タイマーの期限が切れ、システムはタイマー ポリシーに基づいてアクションを実行します。次のいずれかになります。 • **[5_Minutes]**：OS ウォッチドッグ タイマーは、ブートが開始されてから 5 分後に期限が切れます。 • **[10_Minutes]**：OS ウォッチドッグ タイマーは、ブートが開始されてから 10 分後に期限が切れます。 • **[15_Minutes]**：OS ウォッチドッグ タイマーは、ブートが開始されてから 15 分後に期限が切れます。 • **[20_Minutes]**：OS ウォッチドッグ タイマーは、ブートが開始されてから 20 分後に期限が切れます。 （注） このオプションは [OS Boot Watchdog Timer] をイネーブルにした場合にのみ適用されます。
[OSウォッチドッグタイマーポリシー（OS Watchdog Timer Policy）] ドロップダウン リスト **set OSBootWatchdogTimerPolicy**	ウォッチドッグ タイマーが切れた場合にシステムで実行されるアクション。次のいずれかになります。 • **Do_Nothing**：OS のブート中にウォッチドッグ タイマーの期限が切れた場合、アクションは実行されません。 • **Power_Down**：OS のブート中にウォッチドッグ タイマーの期限が切れた場合、サーバの電源がオフになります。 • [Reset]：OS のブート中にウォッチドッグ タイマーが切れた場合、サーバはリセットされます。 （注） このオプションは [OS Boot Watchdog Timer] を有効にする場合にのみ適用されます。

S3260 M5 サーバ

I/O タブ

（注） このタブに記載されている BIOS のパラメータは、サーバによって異なります。

表 *2 : [I/O]* タブの *BIOS* のパラメータ

名前	説明
[Reboot Host Immediately] チェックボックス	オンにすると、ホスト サーバが直ちに再起動されます。このチェックボックスは、変更を保存してからオンにする必要があります。
[レガシー USB サポート（Legacy USB Support）] ドロップダウン リスト **set UsbLegacySupport**	システムでレガシー USB デバイスをサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：USB デバイスは、EFI アプリケーションでのみ使用できます。 • [Enabled]：レガシー USB のサポートは常に使用できます。
[ダイレクト IO への Intel VT（Intel VT for directed IO）] ドロップダウン リスト **set IntelVTD**	プロセッサで Intel Virtualization Technology（VT）を使用するかどうか。このテクノロジーでは、1 つのプラットフォームで、複数のオペレーティング システムとアプリケーションをそれぞれ独立したパーティション内で実行できます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでの仮想化を禁止します。 • [Enabled]：プロセッサで、複数のオペレーティング システムをそれぞれ独立したパーティション内で実行できます。 （注） このオプションを変更した場合は、設定を有効にするためにサーバの電源を再投入する必要があります。
[Intel VTD coherency サポート（Intel VTD coherency support）] ドロップダウン リスト **set CoherencySupport**	プロセッサで Intel VT-d Coherency をサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでコヒーレンシをサポートしません。 • [Enabled]：プロセッサで VT-d Coherency を必要に応じて使用します。

名前	説明
[Intel VTD ATS サポート（Intel VTD ATS support）] ドロップダウン リスト **set ATS**	プロセッサで Intel VT-d Address Translation Services（ATS）をサポートするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサで ATS をサポートしません。 • [Enabled]：プロセッサで VT-d ATS を必要に応じて使用します。
[VMD Enable (VMD の有効化)] ドロップダウン リスト	Intel Volume Management Device (VMD) は、NVMe SSD を管理および集約するためのハードウェア ロジックを提供する PCIe NVMe SSD 向けです。 これは次のいずれかになります。 • **有効**: 堅牢で安定したホットプラグ、ステータス LED 管理などの利点を有効にします。 • **無効**: 堅牢で安定したホットプラグ、ステータス LED 管理などの利点を無効にします。 デフォルト値：**無効**。 VMD を設定するには、『CPU ユーザー ガイドの Intel® 仮想 RAID』と『CPU の Intel® 仮想 RAID』を参照してください。
[すべてのオンボード LOM Oprom（All Onboard LOM Oprom）] ドロップダウン リスト **set AllLomPortControl**	オプション ROM がすべての LOM ポートで使用できるかどうか。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：すべてのポートでオプション ROM を無効にします。 • [有効（Enabled）]：すべてのポートでオプション ROM を有効にします。
[オンボード LOM ポート 0 Oprom（Onboard LOM Port0 Oprom）] ドロップダウン リスト **set LomOpromControlPort0**	オプション ROM が LOM ポート 0 で使用できるかどうか。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：LOM ポート 0 でオプション ROM を 使用できません。 • [有効（Enabled）]：LOM ポート 0 でオプション ROM を使用できます。

名前	説明
[オンボードLOMポート1 Oprom（Onboard LOM Port1 Oprom）] ドロップダウン リスト **set LomOpromControlPort1**	オプション ROM が LOM ポート 1 で使用できるかどうか。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）] : LOM ポート 1 でオプション ROM を 使用できません。 • [有効（Enabled）] : LOM ポート 1 でオプション ROM を使用できます。
[PCIe スロット *n* Oprom（Pcie Slot n Oprom）] ドロップダウン リスト **set PcieSlotnOptionROM**	サーバが *n* で指定した PCIe カード スロットにあるオプション ROM を使用できるかどうか。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）] : スロット *n* のオプション ROM は使用できません。 • [有効（Enabled）] : スロット *n* のオプション ROM は使用可能です。
[MLOM Oprom] ドロップダウン リスト **set PcieSlotMLOMOptionROM**	このオプションでは、MLOM スロットに接続された PCIe アダプタのオプション ROM の実行を制御することができます。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）] : MLOM スロットに接続されている PCIe アダプタのオプション ROM を実行しません。 • [有効（Enabled）] : MLOM スロットに接続されている PCIe アダプタのオプション ROM を実行します。
[HBA Oprom] ドロップダウン リスト **set PcieSlotHBAOptionROM**	このオプションでは、HBA スロットに接続された PCIe アダプタのオプション ROM の実行を制御することができます。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）] : HBA スロットに接続されている PCIe アダプタのオプション ROM を実行しません。 • [有効（Enabled）] : HBA スロットに接続されている PCIe アダプタのオプション ROM を実行します。
[フロント NVME1 Oprom（Front NVME1 Oprom）] ドロップダウン リスト **set PcieSlotN1OptionROM**	このオプションでは、SSD:NVMe1 スロットに接続された PCIe アダプタのオプション ROM の実行を制御することができます。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）] : SSD:NVMe1 スロットに接続されている PCIe アダプタのオプション ROM を実行しません。 • [有効（Enabled）] : SSD:NVMe1 スロットに接続されている PCIe アダプタのオプション ROM を実行します

名前	説明
[フロント NVME2 Oprom（Front NVME2 Oprom）] ドロップダウン リスト **set PcieSlotN2OptionROM**	このオプションでは、SSD:NVMe2 スロットに接続された PCIe アダプタのオプション ROM の実行を制御することができます。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：SSD:NVMe2 スロットに接続されている PCIe アダプタのオプション ROM を実行しません。 • [有効（Enabled）]：SSD:NVMe2 スロットに接続されている PCIe アダプタのオプション ROM を実行します
[HBA リンク速度（HBA Link Speed）] ドロップダウン リスト **set PcieSlotHBALinkSpeed**	このオプションを使用すると、PCIe HBA スロットに装着されているアダプタ カードの最大速度を制限できます。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：最大速度は制限されません。 • [自動（Auto）]：システムは許容最大速度を選択します。 • [GEN1]：最大 2.5GT/s（ギガトランスファー/秒）までの速度が許可されます。 • [GEN2]：最大 5 GT/s までの速度が許可されます。 • [GEN3]：最大 8 GT/s までの速度が許可されます。
[MLOM リンク速度（MLOM Link Speed）] ドロップダウン リスト **set PcieSlotMLOMLinkSpeed**	このオプションを使用すると、PCIe MLOM スロットに装着されているアダプタ カードの最大速度を制限できます。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：最大速度は制限されません。 • [自動（Auto）]：システムは許容最大速度を選択します。 • [GEN1]：最大 2.5GT/s（ギガトランスファー/秒）までの速度が許可されます。 • [GEN2]：最大 5 GT/s までの速度が許可されます。 • [GEN3]：最大 8 GT/s までの速度が許可されます。

名前	説明
[PCIe スロット *n* リンク速度（PCIe Slot n Link Speed）] ドロップダウン リスト **set PcieSlotnLinkSpeed**	システム IO コントローラ *n*（SIOCn）アドオン スロット（*n* によって示される）のリンク速度。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。 • [自動（Auto）]：デフォルトのリンク速度。リンク速度は自動的に割り当てられます。 • [GEN1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN3]：リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。
[フロント NVME1 リンク速度（Front NVME1 Link Speed）] ドロップダウン リスト **set PcieSlotFrontNvme1LinkSpeed**	NVMe フロント スロット 1 のリンク速度。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。 • [自動（Auto）]：デフォルトのリンク速度。リンク速度は自動的に割り当てられます。 • [GEN1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN3]：リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。
[フロント NVME2 リンク速度（Front NVME2 Link Speed）] ドロップダウン リスト **set PcieSlotFrontNvme2LinkSpeed**	NVMe フロント スロット 2 のリンク速度。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。 • [自動（Auto）]：デフォルトのリンク速度。リンク速度は自動的に割り当てられます。 • [GEN1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN3]：リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。

名前	説明
[リア NVME1 リンク速度（Rear NVME1 Link Speed）] ドロップダウン リスト **set PcieSlotRearNvme1LinkSpeed**	NVMe 背面のスロット 1 のリンク速度。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。 • [自動（Auto）]：デフォルトのリンク速度。リンク速度は自動的に割り当てられます。 • [GEN1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN3]：リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。
[リア NVME2 リンク速度（Rear NVME2 Link Speed）] ドロップダウン リスト **set PcieSlotRearNvme2LinkSpeed**	NVMe 背面のスロット 2 のリンク速度。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：スロットは無効であり、カードは列挙されません。 • [自動（Auto）]：デフォルトのリンク速度。リンク速度は自動的に割り当てられます。 • [GEN1]：リンク速度は第 1 世代まで到達可能です。 • [GEN2]：リンク速度は第 2 世代まで到達可能です。 • [GEN3]：リンク速度は第 3 世代まで到達可能です。
[VGA 優先順位（VGA Priority）] ドロップダウン リスト **set VgaPriority**	システムに複数の VGA デバイスがある場合は、VGA グラフィックス デバイスの優先順位を設定できます。次のいずれかになります。 • [オンボード（OnBoard）]：オンボード VGA デバイスが優先されます。BIOS ポスト画面および OS ブートはオンボード VGA ポート経由で駆動されます。 • [オフボード（OffBoard）]：PCIE グラフィックス アダプタが優先されます。BIOS ポスト画面および OS ブートは外部グラフィックス アダプタ ポート経由で駆動されます。 • [オンボードを無効（OnBoardDisabled）]：PCIE グラフィックス アダプタが優先され、オンボード VGA デバイスは無効になります。オンボード VGA が無効の場合、vKVM は機能しません。

名前	説明
[P-SATA OptionROM] ドロップダウン リスト **set pSATA**	PCH SATA オプション ROM モードを選択できます。次のいずれかになります。 • [LSI SW Raid]：SATA コントローラと sSATA コントローラを LSI SW Raid の raid モードに設定します。 • [無効（Disabled）]：SATA コントローラと sSATA コントローラを無効にします。
[M2.SATA OptionROM] ドロップダウン リスト **set SataModeSelect**	Serial Advanced Technology Attachment（SATA）ソリッド ステート ドライブ（SSD）の動作モード。次のいずれかになります。 • [AHCI]： SATA コントローラと sSATA コントローラの両方を AHCI モードに設定します。 • [LSI SW Raid]：SATA コントローラと sSATA コントローラを LSI SW Raid の raid モードに設定します。 • [無効（Disabled）]：SATA コントローラと sSATA コントローラを無効にします。
[リア USB ポート（USB Port Rear）] ドロップダウン リスト **set UsbPortRear**	背面パネルの USB デバイスが有効か無効か。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：背面パネルの USB ポートを無効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されません。 • [有効（Enabled）]：背面パネルの USB ポートを有効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されます。
[フロント USB ポート（USB Port Front）] ドロップダウン リスト **set UsbPortFront**	前面パネルの USB デバイスが有効か無効か。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：前面パネルの USB ポートを無効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されません。 • [有効（Enabled）]：前面パネルの USB ポートを有効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されます。

名前	説明
[内部 USB ポート（USB Port Internal）] ドロップダウン リスト **set UsbPortInt**	内部 USB デバイスが有効か無効か。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）] : 内部の USB ポートを無効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されません。 • [有効（Enabled）] : 内部の USB ポートを有効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されます。
[KVM USB ポート（USB Port KVM）] ドロップダウン リスト **set UsbPortKVM**	KVM ポートが有効か無効か。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）] : KVM キーボードおよびマウス デバイスを無効にします。キーボードとマウスは KVM ウィンドウで機能しなくなります。 • [有効（Enabled）] : KVM キーボードおよびマウス デバイスを有効にします。
[SD カード USB ポート（USB Port SD Card）] ドロップダウン リスト **set UsbPortSdCard**	SD カードが有効か無効か。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）] : SD カードのポートを無効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されません。 • [有効（Enabled）] : SD カードのポートを有効にします。これらのポートに接続されるデバイスは、BIOS およびオペレーティング システムによって検出されます。
[IPV6 PXE サポート（IPV6 PXE Support）] ドロップダウン リスト **set IPV6PXE**	PXE の IPv6 サポートを有効または無効にします。次のいずれかになります • **[無効 (disabled)]** : PV6 PXE のサポートは利用できません。 • **[enabled (有効)]**:IPV6 PXE のサポートを常に利用できます。

サーバ管理タブ

（注） このタブに記載されている BIOS のパラメータは、サーバによって異なります。

表 *3 : [*サーバ管理（*Server Management*）*]* タブの *BIOS* パラメータ

名前	説明
[Reboot Host Immediately] チェックボックス	[ホストを即座にリブート（Reboot Host Immediately）] チェックボックスがオフの場合、サーバはすぐにリブートされ、新しい BIOS 設定が有効になります。そうでない場合、変更内容はサーバが手動でリブートされるまで保存されます。
[OS ブート ウォッチドッグ タイマー ポリシー（OS Boot Watchdog Timer Policy）] ドロップダウン リスト **set OSBootWatchdogTimerPolicy**	ウォッチドッグ タイマーが切れた場合にシステムで実行されるアクション。次のいずれかになります。 • [電源オフ（Power Off）] : OS のブート中にウォッチドッグ タイマーの期限が切れた場合、サーバの電源がオフになります。 • [Reset] : OS のブート中にウォッチドッグ タイマーが切れた場合、サーバはリセットされます。 （注） このオプションは [OS Boot Watchdog Timer] を有効にする場合にのみ適用されます。
[OS ウォッチドッグ タイマー（OS Watchdog Timer）] ドロップダウン リスト **set OSBootWatchdogTimer**	BIOS が指定されたタイムアウト値でウォッチドッグ タイマーをプログラムするかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled] : サーバのブートにかかる時間をトラッキングするためにウォッチドッグ タイマーは使用されません。 • [有効（enabled）] : サーバがブートにかかる時間をウォッチドッグ タイマーで追跡します。サーバのブートが [OS ブート ウォッチドッグ タイマー タイムアウト（OS Boot Watchdog Timer Timeout）] フィールドで指定された時間内に完了しない場合は、Cisco IMC によってエラーがログに記録され、[OS ブート ウォッチドッグ ポリシー（OS Boot Watchdog Policy）] フィールドで指定されたアクションが実行されます。

名前	説明
[OS ブート ウォッチドッグ タイマー タイムアウト（OS Watchdog Timer Timeout）] ドロップダウン リスト **set OSBootWatchdogTimerTimeOut**	OS が指定された時間内にブートしない場合、OS ウォッチドッグ タイマーの期限が切れ、システムはタイマーポリシーに基づいてアクションを実行します。次のいずれかになります。 • [5 分（5 Minutes）]：OS ウォッチドッグ タイマーは、ブートが開始されてから 5 分後に期限が切れます。 • [10 分（10 Minutes）]：OS ウォッチドッグ タイマーは、ブートが開始されてから 5 分後に期限が切れます。 • [15 分（15 Minutes）]：OS ウォッチドッグ タイマーは、ブートが開始されてから 5 分後に期限が切れます。 • [20 分（20 Minutes）]：OS ウォッチドッグ タイマーは、ブートが開始されてから 5 分後に期限が切れます。 （注） このオプションは [OS ブート ウォッチドッグ タイマー（OS Boot Watchdog Timer）] を有効にした場合にのみ適用されます。
[ボー レート（Baud Rate）] ドロップダウン リスト **set BaudRate**	シリアル ポートの伝送速度として使用されるボー レート。[Console Redirection] を無効にする場合は、このオプションを使用できません。次のいずれかになります。 • [9.6k]：9,600 ボー レートが使用されます。 • [19.2k]：19,200 ボー レートが使用されます。 • [38.4k]：38,400 ボー レートが使用されます。 • [57.6k]：57,600 ボー レートが使用されます。 • [115.2k]：115,200 ボー レートが使用されます。 この設定は、リモート ターミナル アプリケーション上の設定と一致している必要があります。

名前	説明
[コンソール リダイレクション（Console Redirection）] ドロップダウン リスト **set ConsoleRedir**	POST および BIOS のブート中に、シリアル ポートをコンソール リダイレクションに使用できるようにします。OS が起動した後は、コンソール リダイレクトは関係ありません。次のいずれかになります。 • [シリアル ポート A（Serial Port A）]：POST 中にシリアル ポート A でコンソール リダイレクションを有効にします。 • [シリアル ポート B（Serial Port B）]：POST 中にシリアル ポート B でコンソール リダイレクションを有効にします。 • [無効（Disabled）]：POST 中にコンソール リダイレクションは発生しません。

サーバ モデル別 BIOS パラメータ

名前	説明
適応型メモリ トレーニング	このオプションを[有効（Enabled）]にすると、次のようになります。 メモリ トレーニングは毎回のブートでは実行されず、BIOSは、保存されたメモリ トレーニングの結果を毎回のリブートで使用します。 毎回のブートでメモリ トレーニングが実行されるいくつかの例外には、次のものがあります。 BIOS の更新、CMOS のリセット、CPU やメモリの設定変更、SPD または実行時の修正不可能なエラー、または、前回のブートから 24 時間以上経過している場合。 このオプションが [無効（Disabled）] の場合、毎回のブートでメモリ トレーニングが行われます。 デフォルト値：[有効（Enabled）]。 （注） [高速ブート（Fast Boot）] オプションを無効にするには、エンドユーザは次のトークンを下記の説明のとおりに設定する必要があります。 [適応型メモリ トレーニング（Adaptive Memory Training）]を [無効（Disabled）] に [BIOS Techlogレベル（BIOS Techlog level）] を [標準（Normal）] に [OptionROM起動最適化（OptionROM Launch Optimization）] を [無効（Disabled）] に

名前	説明
[BIOS Techlogレベル（BIOS Techlog Level）]	このオプションは、 **BIOS tech ログファイル** のメッセージのタイプを示します。 ログファイルには、次のタイプのいずれかを指定できます。 • [最小（Minimum）]：重要なメッセージがログファイルに表示されます。 • [標準（Normal）]：警告およびロードメッセージがログファイルに表示されます。 • [最大（Maximum）]：標準に加え、情報関連のメッセージがログファイルに表示されます。 デフォルト値：[最小（Minimum）] （注） このオプションは、主に、内部のデバッグを目としています。
[OptionROM起動最適化（OptionROM Launch Optimization）]	このオプションが [有効（Enabled）] の場合、ブート順序のポリシーに存在するコントローラにのみ OptionROMs が起動されます。 （注） オンボード ストレージ コントローラ、Emulex FC アダプタおよび GPU コントローラなどのいくつかのコントローラについて、ブート順序のポリシーに含まれていなくても、OptionROM が起動されます。 このオプションが [無効（Disabled）] の場合、すべての OptionROMs が起動されます。 デフォルト値：[有効（Enabled）]
[CDN コントロール（CDN Control）] ドロップダウン リスト **set cdnEnable**	イーサネット ネットワークの命名規則が Consistent Device Naming（CDN）または従来の命名規則に従うかどうか。次のいずれかになります。 • [無効（Disabled）]：VIC カードの CDN サポートが無効になります • [有効（Enabled）]：VIC カードの CDN サポートが有効になります。

名前	説明
[FRB 2 タイマー（FRB 2 Timer）] ドロップダウン リスト **set FRB-2**	POST 中にシステムがハングした場合に、システムを回復するために Cisco IMC によって FRB2 タイマーが使用されるかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：FRB2 タイマーは使用されません。 • [Enabled]：POST 中に FRB2 タイマーが開始され、必要に応じてシステムの回復に使用されます。
[フロー制御（Flow Control）] ドロップダウン リスト **set FlowCtrl**	フロー制御にハンドシェイク プロトコルを使用するかどうか。送信要求/クリア ツー センド（RTS/CTS）を使用すると、隠れた端末問題が原因で発生する可能性があるフレーム コリジョンを減らすことができます。次のいずれかになります。 • [None]：フロー制御は使用されません。 • [RTS/CTS]：RTS/CTS がフロー制御に使用されます。 （注） この設定は、リモート ターミナル アプリケーション上の設定と一致している必要があります。
[ターミナル タイプ（Terminal Type）] ドロップダウン リスト **set TerminalType**	コンソール リダイレクションに使用される文字フォーマットのタイプ。次のいずれかになります。 • [PC-ANSI]：PC-ANSI 端末フォントが使用されます。 • [VT100]：サポートされている VT100 ビデオ端末とその文字セットが使用されます。 • [VT100-PLUS]：サポートされている VT100-plus ビデオ端末とその文字セットが使用されます。 • [VT-UTF8]：UTF-8 文字セットのビデオ端末が使用されます。

セキュリティ タブ

（注） このタブに記載されている BIOS のパラメータは、サーバによって異なります。

表 *4 : [*セキュリティ（***Security***）*]* タブの ***BIOS*** パラメータ

名前	説明
[Reboot Host Immediately] チェックボックス	**[ホストを即座にリブート（Reboot Host Immediately）] チェックボックスがオフの場合、サーバはすぐにリブートされ、新しいBIOS設定が有効になります。そうでない場合、変更内容はサーバが手動でリブートされるまで保存されます。**
[信頼されたプラットフォーム モジュールのサポート（Trusted Platform Module Support）] ドロップダウン リスト **set TPMAdminCtrl**	信頼されたプラットフォーム モジュール（TPM）は、主に暗号キーを使用する基本的なセキュリティ関連機能を提供するように設計されたマイクロチップです。このオプションを使用すると、システムの TPM セキュリティ デバイス サポートを制御できます。次のいずれかを指定できます。 • [Disabled]：サーバは TPM を使用しません。 • [Enabled]：サーバは TPM を使用します。 （注） オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせください。
[電源オン パスワード（Power On Password）] ドロップダウン リスト **set PowerOnPassword**	このトークンでは、F2 BIOS 設定を使用する前にBIOSパスワードを設定する必要があります。有効にすると、IO設定、BIOSセットアップ、BIOSを使用したオペレーティング システムへの起動など、BIOS機能にアクセスする前にパスワードを検証する必要があります。次のいずれかを指定できます。 • [Disabled]：サポートはディセーブルになっています。 • [Enabled]：サポートはイネーブルになっています。

[プロセッサ（Processor）] タブ

（注） このタブに記載されている BIOS のパラメータは、サーバによって異なります。

表 *5 : [*プロセッサ（*Processor*）*]* タブの *BIOS* パラメータ

名前	説明
[Intel Virtualization Technology] ドロップダウン リスト **set IntelVT**	プロセッサで Intel Virtualization Technology（VT）を使用するかどうか。このテクノロジーでは、1 つのプラットフォームで、複数のオペレーティング システムとアプリケーションをそれぞれ独立したパーティション内で実行できます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでの仮想化を禁止します。 • [Enabled]：プロセッサで、複数のオペレーティング システムをそれぞれ独立したパーティション内で実行できます。
[拡張 APIC（Extended APIC）] ドロップダウン リスト **set LocalX2Apic**	拡張 APIC サポートをイネーブルまたはディセーブルにできます。次のいずれかになります。 • [有効（Enabled）]：APIC サポートを有効にします • [無効（Disabled）]：APIC サポートを無効にします。
[プロセッサ C1E（Processor C1E）] ドロップダウン リスト **set ProcessorC1E**	C1 ステートに入ったときに、CPU が最小周波数に移行するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：CPU は C1 ステートでも引き続き最大周波数で動作します。 • [Enabled]：CPU は最小周波数に移行します。このオプションでは C1 ステートで節約される電力量が最大になります。 （注） このオプションを使用できるのは一部の C シリーズ サーバだけです。

名前	説明
[プロセッサ C6 レポート（Processor C6 Report）] ドロップダウン リスト **set ProcessorC6Report**	BIOS からオペレーティング システムに C6 レポートを送信するかどうか。OS はレポートを受信すると、プロセッサを電力量の少ない C6 状態に移行してエネルギー使用量を減らし、最適なプロセッサ パフォーマンスを維持できます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：BIOS から C6 レポートを送信しません。 • [Enabled]：BIOS から C6 レポートを送信し、OS がプロセッサを電力量の少ない C6 状態に移行できるようにします。 （注） [CPUPowerManagement] を [カスタム（Custom）] に設定する必要があります。そのようにしない場合、このパラメータの設定は無視されます。 （注） このオプションを使用できるのは一部の C シリーズ サーバだけです。
[XD ビット（Execute Disable Bit）] ドロップダウンリスト **set ExecuteDisable**	アプリケーション コードを実行できる場所を指定するために、サーバのメモリ領域を分類します。この分類の結果、悪意のあるワームがバッファにコードを挿入しようとした場合、プロセッサでコードの実行をディセーブルにします。この設定は、損害、ワームの増殖、および特定クラスの悪意のあるバッファ オーバーフロー攻撃を防止するのに役立ちます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでメモリ領域を分類しません。 • [Enabled]：プロセッサでメモリ領域を分類します。 （注） オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせください。

名前	説明
[Intel Turbo Boost Tech] ドロップダウン リスト **set IntelTurboBoostTech**	プロセッサでインテル ターボ ブースト テクノロジーを使用するかどうか。このテクノロジーでは、仕様よりも低い電力、温度、または電圧でプロセッサが動作していると、自動的にそのプロセッサの周波数が上がります。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサの周波数は自動的には上がりません。 • [Enabled]：必要に応じてプロセッサで Turbo Boost Technology が利用されます。 （注） [CPUPowerManagement] を [カスタム（Custom）] に設定する必要があります。そのようにしない場合、このパラメータの設定は無視されます。
[Enhanced Intel SpeedStep Tech] ドロップダウン リスト **set EnhancedIntelSpeedStep**	プロセッサで拡張版 Intel SpeedStep テクノロジーを使用するかどうか。このテクノロジーでは、プロセッサの電圧やコア周波数をシステムが動的に調整できます。このテクノロジーにより、平均電力消費量と平均熱発生量が減少する可能性があります。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサの電圧または周波数を動的に調整しません。 • [Enabled]：プロセッサで Enhanced Intel SpeedStep Technology が使用され、サポートされているすべてのスリープ状態でさらに電力を節約することが可能になります。 オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせることを推奨します。 （注） [CPUPowerManagement] を [カスタム（Custom）] に設定する必要があります。そのようにしない場合、このパラメータの設定は無視されます。

名前	説明
[Intel HyperThreading Tech] ドロップダウンリスト **set IntelHyperThread**	プロセッサでインテル ハイパースレッディング テクノロジーを使用するかどうか。このテクノロジーでは、マルチスレッド ソフトウェア アプリケーションのスレッドを各プロセッサ内で並列に実行できます。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでのハイパースレッディングを禁止します。 • [Enabled]：プロセッサでの複数スレッドの並列実行を許可します。
[Workload Configuration] ドロップダウン リスト **set WorkLdConfig**	この機能を使用すると、ワークロードを最適化できます。オプションは [Balanced] と [I/O Sensitive] です。 • **NUMA** • **UMA**
[コア マルチプロセッシング（Core MultiProcessing）] ドロップダウン リスト **set CoreMultiProcessing**	サーバ上の 1 つ以上の物理コアをディセーブルにできます。次のいずれかになります。 • [All]：すべての物理コアをイネーブルにします。 これにより、関連付けられている論理プロセッサ コアで Hyper Threading もイネーブルになります。 • [1] ～ [28]：サーバで実行可能な論理プロセッサ コアの数を指定します。各物理コアには、論理コアが関連付けられています。 （注） オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせください。

名前	説明
[Sub NUMA Clustering] ドロップダウンリスト	CPUがサブNUMAクラスタリングをサポートするかどうか。そのクラスタリングでは、タグディレクトリとメモリチャネルは常に同じ領域にあります。次のいずれかになります。 • [disabled][Disabled]：サブNUMAクラスタリングは発生しません。 • [enabled][Enabled]：サブNUMAクラスタリングが発生します。 • [自動（Auto）][自動（auto）]：BIOSかサブNUMAのクラスタ リングされるかが決まります。
[XPT Prefetch] ドロップダウン リスト	XPTプリフェッチを使用して、最後のレベルのキャッシュに読み取り要求を送信できるようにして、その要求のコピーをメモリ コントローラのプリフェッチャに発行するかどうか。次のいずれかになります。 • [disabled][Disabled]：CPUはXPT Prefetchオプションを使用しません。 • [enabled][Enabled]：CPUはXPTプリフェッチ オプションを有効にします。
[UPIプリフェッチ（UPI Prefetch）] ドロップダウン リスト	UPIプリフェッチは、DDRバス上でメモリ読み込みが早期に開始されるようにするメカニズムです。これは次のいずれかになります。 • [無効（disabled）][無効（Disabled）]：プロセッサでキャッシュ データをプリロードしません。 • [有効（enabled）][有効（Enabled）]：UPIプリフェッチャで最も関連性が高いと判断されたデータを含むL1キャッシュをプリロードします。

名前	説明
[エネルギー パフォーマンスの BIOS 構成（Energy Performance BIOS Config）] ドロップダウン リスト **set CpuEngPerfBias**	システム パフォーマンスまたはエネルギー効率がこのサーバで重要かどうかを判断できます。次のいずれかになります。 • [パフォーマンス（Performance）]：サーバでは、すべてのサーバコンポーネントに全電力を常時提供します。このオプションでは、最高レベルのパフォーマンスが維持され、最大量の電力が必要となります。 • [バランス パフォーマンス（Balanced Performance）]：サーバは、すべてのサーバコンポーネントに、パフォーマンスと電力のバランスを保つのに十分な電力を提供します。 • [バランス電力（Balanced Power）]：サーバは、すべてのサーバコンポーネントに、パフォーマンスと電力のバランスを保つのに十分な電力を提供します。 • [電力（Power）]：サーバは、すべてのサーバコンポーネントに、消費電力の低減を維持するのに最大の電力を提供します。
[電力パフォーマンスの調整（Power Performance Tuning）] ドロップダウン リスト **set PwrPerfTuning**	BIOS または OS によってエネルギー パフォーマンスのバイアス調整をオンにできるかどうかを指定します。オプションは [BIOS] と [OS] です。 • [bios][BIOS]： エネルギー効率を調整する場合は [BIOS] を選択します。 • [os][OS]： エネルギー効率を調整する場合は [OS] を選択します。

名前	説明
[LLC Prefetch] ドロップダウン リスト	プロセッサがLLCプリフェッチメカニズムを使用して日付を LLC にフェッチするかどうか。次のいずれかになります。 • [disabled][Disabled]：プロセッサでキャッシュ データをプリロードしません。 • [enabled][Enabled]：LLC Prefetcherで最も関連性が高いと判断されたデータを含む L1 キャッシュをプリロードします。

名前	説明
[パッケージのCステート（Package C State）] ドロップダウン リスト **set package-c-state-limit-config package-c-state-limit**	アイドル時にサーバ コンポーネントが使用できる電力量。次のいずれかになります。 • [no-limit][制限なし（No Limit）]：サーバは、使用可能な任意の Cステートに入ることがあります。 • [自動（auto）][自動（Auto）]：物理的な高度を CPUが決定します。 • [C0 C1 ステート（C0 C1 State）]：サーバはすべてのサーバコンポーネントに常にフル パワーを提供します。このオプションでは、最高レベルのパフォーマンスが維持され、最大量の電力が必要となります。 • [C2]：CPU のアイドル時に、システムの電力消費をC1 オプションよりもさらに低減します。この場合、必要な電力はC1 またはC0 よりも少なくなりますが、サーバがハイ パフォーマンス モードに戻るのに要する時間が少し長くなります。 • [C6 保持なし（C6 Non Retention）]：CPU のアイドル時に、C3 オプションよりもさらに電力消費が低減されます。このオプションを使用すると、C0、C1、またはC3 よりも電力量が節約されますが、サーバがフルパワーに戻るまでにパフォーマンス上の問題が発生する可能性があります。 • [C6 保持（C6 Retention）]：CPUのアイドル時に、C3 オプションよりもさらに電力消費が低減されます。このオプションを使用すると、C0、C1、または C3 よりも電力量が節約されますが、サーバがフルパワーに戻るまでにパフォーマンス上の問題が発生する可能性があります。

名前	説明
[ハードウェア P ステート（Hardware P-States）] ドロップダウン リスト **set CpuHWPM**	プロセッサ ハードウェアの P ステートを有効にします。次のいずれかになります。 • [disabled][Disabled]：HWPM がディセーブルになります。 • [hwpm-native-mode][HWPM Native Mode]：HWPM ネイティブモードがイネーブルになります。 • [hwpm-oob-mode][HWPM OOB Mode]：HWPM アウトオブボックスモードがイネーブルになります。 • [Native Mode with no Legacy]（GUI のみ）
[Intel Speed Select (Intel の速度選択)] ドロップダウン リスト	**[Intel Speed Select (Intel の速度選択)]** モードでは、ユーザーは異なる速度とコアを使用して CPU を実行できます。 次のいずれかになります。 • **基本**): ユーザーは最大コアおよび熱設計電力 (TDP) 比率にアクセスすることができます。 • **設定 1** ユーザーは **基本**より小さいコアと TDP 比率にアクセスできます。 • **設定 2** ユーザーは **設定 1** より小さいコアと TDP 比率にアクセスできます。 デフォルト値: **基本**。

[Memory] タブ

（注） このタブに記載されている BIOS のパラメータは、サーバによって異なります。

表 *6 : [*メモリ（*Memory*）*]* タブの *BIOS* パラメータ

名前	説明
[Reboot Host Immediately] チェックボックス	オンにすると、ホスト サーバが直ちに再起動されます。このチェックボックスは、変更を保存してからオンにする必要があります。
[メモリ RAS 構成の選択（Select Memory RAS configuration）] ドロップダウン リスト **set SelectMemoryRAS**	サーバに対するメモリの信頼性、可用性、およびサービス性（RAS）の設定方法。次のいずれかになります。 • [最大パフォーマンス（Maximum Performance）] : システムのパフォーマンスが最適化されます。 • **ADDDC のスペアリング**: 適応可能な仮想ロックステップは、ADDDC モードをサポートするためにハードウェアおよびファームウェアで実装されるアルゴリズムです。選択すると、アルゴリズムがアクティブになるまでシステムのパフォーマンスが最適化されます。このアルゴリズムは、DRAM デバイスで障害が発生した場合にアクティブになります。アルゴリズムがアクティブになると、仮想ロックステップ リージョンがアクティブになり、実行時に障害が発生したリージョンが動的にマッピングされ、パフォーマンスへの影響はリージョン レベルで制限されます。 • [ミラー モード 1LM（Mirror Mode 1LM）] : システムのメモリの半分をバックアップとして使用することにより、システムの信頼性が最適化されます。

名前	説明
[4 G 以上の復号化（Above 4G Decoding）] ドロップダウン リスト **set MemoryMappedIOAbove4GB**	4 GB 以上の MMIO を有効または無効にします。次のいずれかになります。 • [Disabled]：サーバでは 64 ビット PCI デバイスの I/O を 4 GB 以上のアドレス空間にマッピングしません。 • [Enabled]：サーバで 64 ビット PCI デバイスの I/O を 4 GB 以上のアドレス空間にマッピングします。 （注） PCI デバイスが 64 ビット対応でも、レガシーなオプション ROM を使用する場合は、この設定をイネーブルにしても正しく機能しない場合があります。
[DCPMM Firmware Downgrade (DCPMM ファームウェアのダウングレード)] ドロップダウン リスト **set DCPMMFirmwareDowngrade**	BIOS が DCPMM ファームウェアのダウングレードをサポートしているかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：サポートはディセーブルになっています。 • [Enabled]：サポートはイネーブルになっています。
[NUMA] ドロップダウン リスト **set NUMAOptimize**	BIOS で Non-Uniform Memory Access（NUMA）がサポートされているかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：サポートはディセーブルになっています。 • [Enabled]：サポートはイネーブルになっています。

[電力/パフォーマンス（Power/Performance）] タブ

（注） このタブに記載されている BIOS のパラメータは、サーバによって異なります。

表 *7 : [*電力/パフォーマンス（*Power/Performance*）*]* タブの *BIOS* パラメータ

名前	説明
[Reboot Host Immediately] チェックボックス	オンにすると、ホスト サーバが直ちに再起動されます。このチェックボックスは、変更を保存してからオンにする必要があります。
[ハードウェア プリフェッチャ（Hardware Prefetcher）] ドロップダウン リスト **set HardwarePrefetch**	プロセッサで、インテル ハードウェア プリフェッチャが必要に応じてデータおよび命令ストリームをメモリから取得し、統合 2 次キャッシュに入れることを許可するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：ハードウェア プリフェッチャは使用しません。 • [Enabled]：プロセッサで、キャッシュの問題が検出されたときにプリフェッチャを使用します。
[隣接キャッシュ ライン プリフェッチャ（Adjacent Cache Line Prefetcher）] ドロップダウン リスト **set AdjacentCacheLinePrefetch**	プロセッサで必要な行のみを取得するのではなく、偶数または奇数のペアのキャッシュ行を取得するかどうか。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサで必要な行のみを取得します。 • [Enabled]：プロセッサで必要な行およびペアの行の両方を取得します。
[DCU ストリーマ プリフェッチ（DCU Streamer Prefetch）] ドロップダウン リスト **set DcuStreamerPrefetch**	プロセッサで DCU IP プリフェッチ メカニズムを使用して履歴キャッシュ アクセス パターンを分析し、L1 キャッシュ内で最も関連性の高い行をプリロードします。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサはキャッシュ読み取り要求を予測しようとせず、明示的に要求された行のみを取得します。 • [Enabled]：DCU Prefetcher でキャッシュ読み取りパターンを分析し、必要と判断した場合にキャッシュ内の次の行を事前に取得します。

名前	説明
[DCU IP プリフェッチャ（DCU IP Prefetcher）] ドロップダウン リスト **set DcuIpPrefetch**	プロセッサで DCU IP プリフェッチ メカニズムを使用して履歴キャッシュ アクセス パターンを分析し、L1 キャッシュ内で最も関連性の高い行をプリロードします。次のいずれかになります。 • [Disabled]：プロセッサでキャッシュ データをプリロードしません。 • [Enabled]：DCU IP プリフェッチャで最も関連性が高いと判断されたデータを含むL1 キャッシュをプリロードします。
[CPU パフォーマンス（CPU Performance）] ドロップダウン リスト **set CPUPerformance**	上記のオプションに対しCPUパフォーマンス プロファイルを設定します。次のいずれかになります。 • [Enterprise]：すべてのオプションがイネーブルです。 • [HPC]：すべてのオプションが有効になります。 この設定はハイ パフォーマンス コンピューティングとも呼ばれます。 • [高スループット（Hight Throughput）]：DCU IP プリフェッチャのみが有効になります。残りのオプションは無効になります。 • [カスタム（Custom）]：パフォーマンス プロファイルのすべてのオプションをサーバの BIOS セットアップから設定できます。また、[ハードウェア プリフェッチャ（Hardware Prefetcher）] オプションと [隣接キャッシュ ライン プリフェッチャ（Adjacent Cache Line Prefetcher）] オプションも同様に設定できます。